麦の里

2021年度(R3)事業総括

〈2021年度事業計画　掲載〉

&

2022年度(R4)事業計画

昨年度の歩みを
　今年度へつなげる為に

今年度の歩みを
　来年度へ手渡すために

～骨子の一覧表～

《2021年度(R3)　事業総括》

Ⅰ　日中活動の中身を見直そう

【1】☆Aグループは作業中心としつつ、仲間たちによる自主的な活動ができるようにしていく。
☆Bグループは少しずつ自我が育ってきている。
お互いの気持ちを尊重しながら作業に取り組む。

【2】重度重複の仲間たちの活動を考えよう。
☆「食べること」「飲むこと」「排泄」「姿勢保持」そして「入浴」は、安定してできるようになりました。だから…
もっと新しい「療護」を目指して、活動内容を充実させたい

【3】自分の生活について考えよう。
☆自分の身体の事や生活、やりたい事など、作業以外のことを仲間たちと話し合いながら取り組んでいく。

Ⅱ　職員体制の充実

【1】日中活動の施設とホームの安定。業務体制を拡充していく。

【2】職員研修に積極的に出してスキルアップしていく。

【3】職員増員、第2麦の里に向けて、業務体系を変えていく。

～骨子の一覧表～

《2022年度(R4)　事業計画》

Ⅰ　日中活動の中身を見直そう

【1】☆Aグループは作業を中心の中で、仲間同士の関係を深めていく。

【2】☆Bグループは少しずつ自我が育ってきている。作業を通じて
お互いの気持ちを尊重していく。

【3】重度重複の仲間たちの活動を考えよう。
☆仲間たちがいきいきと過ごせるように療護の活動を充実させていく。

【4】自分の生活について考えよう。
☆自分の身体の事や生活、やりたい事など、作業以外のことを
仲間たちと話し合いながら取り組んでいく。

Ⅱ　職員体制の充実

【1】第2麦の里の建設を目指して、日々の活動を安定させる。

【2】スキルアップのために職員研修に積極的に参加していく

【3】職員増員、第2麦の里に向けて、業務体系を変えていく。

《2021年度(R3)事業総括》

Ⅰ　日中活動の中身を見直そう

【1】☆Aｸﾞﾙｰﾌﾟは作業中心としつつ、仲間たちによる自主的な活動ができるようにしていく。
☆Bｸﾞﾙｰﾌﾟは少しずつ自我が育ってきている。お互いの気持ちを尊重しながら作業に取り組む。

①A・Bｸﾞﾙｰﾌﾟともに１日の日課、流れが変更となった。
Aグループでは、仲間たちと話し合いを重ね、「グループごとでの報告会」「そうじ」「配膳のお手伝い」など新たな取り組みも始めた。また、報告会では、仕事の申し送りなどもできており、より充実した報告会となった。
一部の仲間ではあるが、作業の報告会の司会を進んですることができた。
Bグループでは、朝の会前にラジオ体操をすることで一体感が生まれ、報告会では、Bグループだけで行うことで、集中して他の仲間の報告を「聞く」ことができている。メリハリがついた。

②A・Bグループともに仲間の会は定期的な開催とは至らなかった。仲間たちの「やりたいこと」は、例会活動として取り組んできた。

③Bｸﾞﾙｰﾌﾟは、外の活動に取り組む人数制限をしている。その為、午前か午後のどちらかは室内作業としている。外作業への希望が制限よりも多い際には、譲り合いを基本としてる。お互いに譲れない際には「順番ノート」を活用して「次は順番で行ける」という見通しを持つことで、譲ることができている。

④避難訓練は、規定通り年２回開催。１月の訓練では在庫の関係で数名のみヘルメットや防災頭巾の着用をした。それによって安心感があって良かったという意見があった。これからまた計画的に買い足していく予定。

《2021年度(R3)事業計画》

Ⅰ　日中活動の中身を見直そう

【1】☆Aｸﾞﾙｰﾌﾟは作業中心としつつ、仲間たちによる自主的な活動ができるようにしていく。
☆Bｸﾞﾙｰﾌﾟは少しずつ自我が育ってきている。時間は掛かるけれど、話し合いを大切にして、お互いの気持ちを尊重し合いながら作業に取り組む。

〔短期目標〕
①A・Bグループ共に仲間の会の開催日を決めて、定期的に開催する。
②Aグループの仲間たちは、作業中心の活動ではあるが、クラブ活動のような、自主的な活動ができるようにしたい。そのために、仲間たちの「興味の　あること」や「やりたい事」を日々の活動で知り、共有できるようにする。
③Bグループは、作業の順番決めなどでは時間が掛かる場面が多い。
けれども、大切な場面でもあるので、今後も工夫しながら話し合いを持ち、「自己主張」を受け止めながら、「仲間の意見を聴く」姿勢を育てていく。

〔長期目標〕
①仲間の気持ちが引き出せるように、職員主導ではなく、仲間たち自身が主導で話し合いができるように、ケース検討や発達保障の勉強会なども積極的に開く。

～計画　各論①～

《2022年度(R4)事業計画》

Ⅰ　日中活動の中身を充実させよう

【1】☆Aグループは作業活動を中心にしながら、仲間同士の関係を深めていく。

〔短期目標〕
①作業を通じて、仲間たちが他者を意識していくことで仲間同士の関係を深めていく
②仲間たちの「興味のあること」や「やりたい事」を日々の活動で知り、共有できるようにする。
③報告会も朝の会同様に仲間たちでやれるようにしていく。

〔長期目標〕
①仲間の気持ちが引き出せるように、職員主導ではなく、仲間たち自身が主導で話し合いができるように、ケース検討や発達保障の勉強会なども積極的に開いていく。

【2】☆Bグループは少しずつ自我が育ってきている。作業を通じてお互いの気持ちを尊重していく。

〔短期目標〕
①朝の会の話し合いでの譲り合いを意識していくことでお互いの気持ちを尊重していく。
②仲間たちの「興味のあること」や「やりたい事」を日々の活動で知り、共有できるようにする。
③作業項目を3～4つにして小集団を作ることで、仲間たち同士がお互いを意識できるようにしていく。

〔長期目標〕
①順番を記録したノートを活用するのではなく、「話し合い」の中で譲り合いができるようになる。
②作業の中で自発的に助け合い、お互いに協力して取り組めるようになる。

Ⅰ　日中活動の中身を見直そう

【２】重度重複の仲間たちの活動を考えよう。

☆「食べること」「飲むこと」「排泄」「姿勢保持」そして「入浴」は、安定してできるようになりました。だから…
もっと新しい「療護」を目指して、活動内容を充実させたい

①定期的な仲間の会の開催はできなかったが、今年度は、療護グループも日課、１日の流れの変更を行い、午後の報告会では翌日の活動内容を決めるということを始めた。これによって、今日は1日何をしようかということに朝から時間を費やすことは減った。
②木曜午後から行われる作業室でのボカシの仕込みに参加したり、アイシン、かやふきん作業をしている。一方で、図書館や公園に出掛け、車イスサッカーや散歩をしたりという活動が計画的にできた。
③午前午後に分けて行っていた入浴を午後に集中させたことで、昨年度以上に活動時間が増えた。
④車椅子ダンスの発表を昨年度に続き「成人を祝う会」で行った。
⑤看護師の確保や喀痰吸引ができる第３号研修取得者が、業務に入る体制は整備できなかった。
⑥職員研修・他施設の見学は、コロナ禍もありできていない。
⑦１年を通して療護の仲間への誕生日カードを、日中の活動で仲間と製作し、渡すことができた。

《2021年度(R3)事業計画》

Ⅰ　日中活動の中身を見直そう

【２】重度重複の仲間たちの活動を考えよう。
☆「食べること」「飲むこと」「排泄」「姿勢保持」そして「入浴」は、安定してできるようになりました。だから・・・
もっと新しい「療護」を目指して、活動内容を充実させたい。

〔短期目標〕
①毎日毎日の取り組みを、前日には決めておくということを定着させる。
②土曜日の例会活動の中身については、１年間で計画を立てる。
また、平日の取り組みについては、みんなで方向性が確認できるように、定期的に「仲間の会」を開催して、話し合って決めていく。
③療護の活動内容を、より良いものにしていく為に、職員研修や他施設への見学を実施。
もっと積極的に他施設の情報を収集して重度重複障害者の日中活動について学習したい。
〔中長期目標〕
①仲間たちの外出の取り組みには、看護師の同行が不可欠な医療的ケアの仲間もいる。
仲間たちの外出の機会を増やすために看護師の１名増員を目指す。
又、喀痰吸引ができる介護職員の増員も目指していく。
②「療護職員の主任」が配置できるように、職員体制の改善を目指していきたい。

【３】自分の生活について考えよう。

☆自分の身体の事や生活、やりたい事など、作業以外のことを仲間たちと話し合いながら取り組んでいく。

①今年度は、新たにOTが月に２回来てくださることとなり、PT、OTと連携して車いすのことや姿勢など個々の対応をしている。
②仲間たちの定期通院や急な疾患に対して、通院補助を実施した。
③普段は自宅で入浴しているが、十分な整容ができていないことから年度後半に男性の仲間が１名追加で入浴することとなった。また、年度途中から同じく男性が1名、血行促進を含めて浴室にて足を洗うことを始めた。
④個別支援計画を仲間たちと共有することはできなかった。
また、職員間でのケース検討もほとんどしていない。

～計画　　各論②～

Ⅰ　日中活動の中身を充実させよう

【3】重度重複の仲間たちの活動を考えよう。

☆仲間たちがいきいきと過ごせるように療護の活動を充実させていく

〔短期目標〕

①毎日の取り組みを前日には決めておくことが定着してきた。活動の中身や方向性などを職員間で共有しながら、次の活動につなげていくいため、療護会議を定期的に行っていきたい。

②1年の取り組みを計画して、掲示物として見える化する。

③職員研修に積極的に参加。他施設の重度重複施設への見学へ出掛ける。

④第3号研修資格取得者が実際に吸引等実施できるように体制を整備する。

〔中長期目標〕

①医療的ケアの仲間たちの急な宿泊にも対応できるように、第2号／第3号研修の資格取得者を増やしていく。

②療護の職員から主任を選抜する。

【4】自分の生活について考えよう。

☆自分の身体の事や生活、やりたい事など、作業以外のことを仲間たちと話し合いながら取り組んでいく。

〔短期目標〕

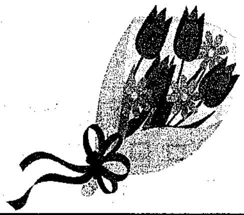
①仲間の会で、仲間たち自身から「こういう話をしたい」「こういう仲間の会を開きたい」と自発的に出てくるようにしたい。

②PTやOTと連携しながら、仲間の身体のことは、個別に相談していく。

③職員間でも、問題意識の共有を図っていく。

〔中長期目標〕

①仲間たちと、「親亡き後」の生活について、どうしていきたいのか等、話し合っていきたい。



前ページの下段に
掲載できなかったので…

《2021年度(R3)事業計画》

Ⅰ　日中活動の中身を見直そう

【3】自分の生活について考えよう。

☆自分の身体の事や生活、やりたい事など、作業以外のことを仲間たちと話し合いながら取り組んでいく。

〔短期目標〕

①仲間の会を通じて、仲間たち自身の身体のことや生活に関すること、例えば「『健康について』などテーマを決めて勉強会を開いてみる」等々、仲間たちと 学習と経験を積み重ねる取り組みをしていきたい。

②PTと連携しながら、仲間の身体のことを個別に相談していく。

③「個別支援計画」を仲間たちと共有する中で、作業以外のことについても話せるように、ひとり1人の仲間と話し合う時間も増やしていく。
合わせて、職員間でケース検討を開催し、個別の生活状況や身体の事なども情報共有し、日常の活動の組み立てに盛り込んでいきたい。

〔中長期目標〕

①仲間たちと、「親亡き後」の生活についても話し合っていきたい。

②「仲間の会」が、仲間たちの自発的な話し合いの場となるようにしていきたい。

Ⅱ 職員体制の充実

【1】第2麦の里の建設を目指して、日々の活動を安定させる

①6月と7月に正職員の男性が1名ずつ退職した。12月に正職員の女性が1名、退職した。
②11月に正職員の女性が産休・育休に入った。
③8月に外国人技能実習生の女性が1名、準職員として入職した。2月に男性が1名、6月には女性が1名正職員として入職した。
④職員体制が充実。遅番職員が朝から出勤することはほとんどなくなった。
⑤日中の職員は増えてきて、職員体制は充足しているが今後の第2麦の里を見据えていくと職員のレベルアップが求められる。
⑥今年度は、喀痰吸引ができる第2号／第3号の資格取得者はいなかった。
⑦今年度は、コロナ対策の為、就職フェアには1回も参加せず。
⑧作業担当者の入れ替えを行った。

《2021年度(R3)事業計画》

Ⅱ 職員体制の充実

【1】第2麦の里の建設を目指して、日々の活動を安定させる。

〔短期目標〕
①日中職員は充足してきている為、ホームに関われる職員、特に「早番」「遅番」が可能な職員の確保を引き続き目指していく。（ホームページの充実や活用等で、人材募集を掛けていく。）
②『第2麦の里』実現に向けて話し合いを深めていく。職員も確保していく。
③日々のミーティングの中身を深めて、単なる「報告」ではなく、振り返りが行えるように、ミーティングのあり方、方法を再検討する。
〔中長期目標〕
①仲間たちへのより良い支援の継続・充実を目指して、職員ひとり1人の力量を高めていけるようにしたい。また、チームワークとしてまとまり、 より良いチームとなって支援ができるようにしていきたい。
②看護師の増員、喀痰吸引可能な職員の増員を目指し、医療的ケアの必要な仲間たちの活動範囲を広げていきたい。

【2】職員研修に積極的に出してスキルアップしていく。

①コロナ対策の為、多くの研修が中止となり、リモートでの研修が主だった。
②「強度行動障害者支援」の為の「行動援護支援従事者」研修に3名が参加。
③サービス管理責任者は、1名資格取得となった。
④社内研修として2月に虐待防止の研修を行った。また、3月にリモートで市の虐待防止研修にパート職員が2名参加した。

《2021年度(R3)事業計画》

Ⅱ 職員体制の充実

【2】職員研修に積極的に出してスキルアップしていく。

〔短期目標〕
①研修の情報を事前に提示していく。たくさんの職員が参加できるよう促していく。
②研修だけでなく他施設との交流や見学も行い、日中活動について学習したい。
③「行動援護支援者研修」は、引き続き、積極的に参加していく。
④サービス管理責任者の資格取得者を、引き続き増やしていく。
〔長期目標〕
①「介護福祉士」「社会福祉士」ならびに「第2号／第3号喀痰吸引研修」などの資格について取得希望の職員を応援していく。

～計画　各論③～

Ⅱ　職員体制の充実

【１】第２麦の里の建設を目指して、日々の活動を安定させる。

〔短期目標〕

①日中職員は充足してきている為、ホームに関われる職員、特に「早番」「遅番」が可能な職員の確保をしていく。
（ホームページの充実と活用等で、人材募集を掛けていく。）

②『第２麦の里』実現に向けて、具体的に中身を詰めていく。

③仲間たちの活動・支援について職員会議や夕方の振り返りで、仲間のケース検討をしていく。

〔中長期目標〕

①施設建設のための資金の調達を行う。

②看護師の増員、喀痰吸引可能な職員の増員を目指す。

【２】スキルアップのために職員研修に積極的に参加していく

〔短期目標〕

①研修の情報を事前に提示し、多くの職員が参加できるように促す。

②他施設との交流や見学を通して、良い点をもっと麦の里に取り入れる。

③「行動援護支援者研修」に、続けて積極的に参加する。

④サービス管理責任者の資格取得者を、今後も増やしていく。

〔長期目標〕

①「介護福祉士」「社会福祉士」ならびに「第２号／第３号喀痰吸引研修」などの資格について取得希望の職員を応援していく。

II　職員体制の充実

【3】職員増員、第2麦の里に向けて、業務体系を変えていく。

①今年度は、主任の正職員が産休・育休に入ったこともあり、A・B・Rに分かれてミーティングがほとんど出来なかった。人数が多いため時間もかかり、集中できないことも多々。振り返りの在り方を検討し、特記のみの振り返りとなり、時間は約1時間の短縮となった。だが、本当に必要な振り返りが出来ているかどうか、再度検討する必要がある。
②主任3人で1日の仕切りを回していたので、日々の連絡事項を申し送り用のホワイトボードを活用して職員間で共有を図った。年度後半には必要がなくなり、必要なことは口頭での申送りで共有できている。
③夕方、記録に時間を取られ、負担となっていた職員の作業日報用紙は年度途中に廃止。個々の作業担当職員がそれぞれで把握していくようにした。
④日中の職員が確保できている際に、主任だけでなく、正職員を事務に回すことができるようになった。そのため、職員が遅くまで残業をする時間が減り、早く帰社することを今まで以上に皆が意識するようになった。
⑤年度内に2回、「七色の麦」に勤務している職員が集まって、職員会議が実施できた（1回は、パート職員にも参加してもらった）。
⑥ほとんど毎週の金曜日には職員会議を行った。夜勤等で参加できない職員もいる中ではあったが、会議記録を通して職員間で共有できている。
⑦夕方の掃除に関しては、コロナ禍における施設内の消毒に時間と人がとられていたが、オゾン発生機を導入したことで、職員の負担は激減。また、個別におしりふきシートや汗ふきタオル、口拭きタオルを持参してきてもらうことで、洗濯物に時間を取られていた職員の負担も激減した。

《2021年度(R3)事業計画》

II　職員体制の充実

【3】職員増員、第2麦の里に向けて、業務体系を変えていく。

〔短期目標〕
①準正職員と正職員の業務内容等の違いを規定としてまとめる。
②夕方の職員の清掃箇所を一部簡略化して、翌日のハウスキーパーへの依頼とする。
③送迎に関して、可能なパート職員の方にも依頼していく。

〔中長期目標〕
①『第２麦の里』の開所を、具体的な日程として年度スケジュールに盛り込む。
　そのための準備として職員と仲間の配置の変更等の調整を具体化していく。

～計画　　各論④～

II　職員体制の充実

【3】職員増員、第2麦の里に向けて、業務体系を変えていく。

〔短期目標〕

①「意義のある毎日の振り返りを目指す。単なる「報告」ではなく、振り返ることが行えるように、夕方の時間のあり方、方法を再度検討する。
②準正職員と正職員の業務内容等の違いを規定としてまとめる。
③夕方の清掃箇所を簡略化して、翌日のハウスキーパーへの依頼とする。
④送迎に関して、可能なパート職員の方にも依頼していく。

〔中長期目標〕

①『第2麦の里』の開所を、具体的な日程としてを設定する。そのための準備として職員と仲間の配置の変更等の調整を具体化していく。

2021年度　文章総括

Ⅰ．全体のまとめ

開所 18 年目を迎えた麦の里の仲間たちは

・4 月から新しい仲間を受け入れて 42 名でスタートしました。また年度途中より、新たに 1 名加わり 43 名となりました。新卒の仲間は、笑顔が特徴のアンジェルマン症候群という障害を持っています。年度途中で加わった仲間は、40 代男性で、てんかん発作のある仲間です。発作は一瞬ですが、転倒につき見守りが必要です。

・年度後半より、男性で入浴する方が増えました。この方は、全身に湿疹ができたことにより、麦の里での入浴を開始しました。清潔を保つことで改善が見られています。仲間たちや親御さんの高齢化に伴い、今後も必要な仲間たちが増えていくと考えられます。

今年度の 10 月下旬、麦の里では 1 日の流れが大きく変わりました。

・これまでの報告会では、仲間の人数が増えたこともあって 20 分から 30 分と長く、一人で声を張って司会進行を行う職員への負担は過多、仲間たちも集中が切れて騒がしい状況でした。報告会を A・B・療護の各グループに分かれて行うことで、声も聞こえやすく、仲間や職員、お互いの報告を聞くことができています。また、A グループでは作業の進捗状況を共有し合い、療護グループでは翌日の活動内容を相談することができるようになりました。

・グループホームでは昨年度に引き続き、4 泊 5 日と、定期的な体験利用を継続。昨年度入退院を繰り返していた仲間は、週に 1 度、1 泊 2 日から宿泊再開をしています。回数を重ねて、泊数を増やせるようにしていければと考えています。また、年度後半には、体験利用をしてきた仲間の親御さんが亡くなり、ご本人は体験利用を月１回ではなく継続して利用してもらいました。来年度以降については、体験利用を一時ストップして、「入所」できるよう整備しています。

今年度から毎年恒例の「もちつき大会」を無くしました。

・また、例会活動を仲間たちのお楽しみ活動として取り組みました。仲間たちの希望を汲み取り、中身の濃い例会活動を展開しています。今年度もバザー活動は、新型コロナの影響もあり、軒並み中止となりました。コロナが落ち着いた時期に数回、瀬戸市役所の福祉マルシェに参加しました。

職員体制の面から振り返ると

・正職員では女性が１名、11 月に産休・育休に入りました。３名の退職がありましたが、特定技能実習生の女性を含め、４名が新たに入職。年度当初に比べ、１名の増員となりました。また、来年度には、正職員が１名入職予定です。
パート職員では、4 月には OT が 1 名入職。１名の退職はありましたが、介護休業をし

ていた女性が復帰となり、１名増員。来年度には、男性、女性１名ずつ増員予定です。

・A グループは、入れる職員の幅を増やしました。正職員・パート職員合わせて、6 名の配置ができています（仲間 16 名に対し、職員６名程）。また、マンツーマン対応の仲間に対してもできる職員を年度後半より、増やしてきています。
B グループは、職員を手厚くしています。仲間平均 13 人に対して 9 名を維持するようにしています。
療護グループは、特に入浴のある火曜・木曜と夜勤の関係から職員が足りないことがあり、今後の課題となっています。
正職員・パート職員ともに増員していますが、職員個々のレベルアップが求められます。

・PT・OT が月 2 回ずつ来ていることで仲間たちの身体面でのことや姿勢などアドバイスを頂き、日々の仲間たちのケアに活かしています。

・作業担当のバランスを考慮して、見直しを行いました。
ですが、未だ偏りがあるので早急に検討しなければいけません。

・正職員の残業を減らしていくために日中に事務ができるようにしてきました。
これにより、正職員の残業も減ってきています。一方で、日中の主任会議は数回のみとなりました。

（Ｙ・Ｍ＆Ｓ・Ｋ）

★☆★【新型コロナウィルス感染対策に関して】★☆★

1．感染対策として実施した内容

1) 利用者・職員に対する注意喚起として

①手洗い・手指消毒の実施

②うがいの実施

③マスクの着用

④毎朝の検温の実施

2) 玄関、各部屋の入り口に手指消毒剤・マスクの設置。

来所者に玄関にての検温の実施、来所者チェック名簿リストに記入してもらう

3) 屋内全般の換気を心掛ける

３０分に１度、５分間の換気アナウンスの実施

車両で移動する際には、窓を開けるなどして、換気に気を配る

4)「屋外作業」の方法に関しての話合いと対策の実施

①廃品回収等は、人数制限をして出掛ける

②できる限りマスクを付ける

③なるべく手指消毒剤を持っていく等、外出先でも清潔を心掛ける。

5) 公共交通機関利用者に対する送迎の保障

6) 利用者帰宅後の全館のオゾン発生器・消毒液による消毒の実施

7)【新型コロナワクチン】の集団接種の実施（第１回目～３回目）

①利用者はもちろん、職員も含めて、希望者全員がスムーズに接種できるように準備。地域の医療機関に依頼して、麦の里にて接種を実現している。

②希望しながら、個々の事情から接種できなかった利用者に対しては、瀬戸市の集団接種会場で接種できるように手配して、接種当日の支援も実施している

2．その他利用者・職員への配慮

▼文章による注意喚起

「自粛休業」に関する紹介

万が一休業した場合の対策の紹介

▼口答による日々の注意喚起

3．結果として

年度後半には、新型コロナウィルスに仲間が１名、感染。保健所に相談したところマスク着用しているため誰一人「濃厚接触者」には該当しないとのこと。感染が大きく広がることもなく、麦の里も開所を維持できました。一方で、職員１名が感染。食事や排せつ介助時の対応についても対策を検討が必要だと痛感しました。

Ⅱ、仲間たちの日課と活動スタイル

①1日の日課と活動スタイル

朝の会は、Aグループ、Bグループ、療護に分かれて行います。その日誰が何の作業をするのか、毎日仲間に尋ねて本人のやりたい作業をすることになります。時には人数制限のため、話し合いの中で誰かが別のところへ移らなくてはならない場合もあります。その時は、納得いくまで話し合う姿勢です。そしてラジオ体操、今日の作業のこと、健康状態、仲間の出欠席を各グループが必要に応じて話し、仲間からも今日の司会者は順番で担当されます。

その後、午前の作業、各グループでの報告会、お昼、休憩、そして午後の作業がAは13時から、B、療護は13時半から始まります。

Aグループはより目的意識を持った作業を、Bグループは、仲間の作業を職員が盛り上げ支えて楽しく行います。そして療護ではのんびりの時間や入浴の日、そして作業をする日もあります。のんびりの時間では、季節に応じて、夏には園芸の野菜の収穫や水やり、足浴、手先アートなどがされています。その後、15時10分より片付けや水分補給、トイレ休憩、報告会が行われ、15時40分より、おやつの時間、そして挨拶ののちに、麦の里の1日は終わります。　（Ａ・Ｈ）

②個別の取り組み

今年度もＡグループ、Ｂグループ、療護グループに分かれて作業活動や療育活動に取り組んでいます。個別の対応は継続しており、新たに1名のマンツーマン対応を行い、個々の仲間に合った取り組みをしています。計５名の仲間が職員とマンツーマンで作業活動に取り組んでおり仲間たちも安定しています。

個別の車椅子、補装具の修理等、仲間の作業内容を理学療法士・作業療法士の先生と相談しながら取り組んでいます。

個別での通院補助についても継続しており、各々の必要に合わせて支援しています。またご本人、ご家族と相談しながら、今後も安心して麦の里に通所していただけるよう取り組んでいきます。　（Ｔ・Ｋ）

Ⅲ、グループ別　活動のまとめ

◎Ａグループまとめ◎

１、全体として

今年度も１２月に１名男性が新たにＡグループの仲間として加わりました。作業を通して本人のやりがい、がんばっていきたいことをともに見つけていきたいと思います。

毎年のように仲間の人数が増え、仲間それぞれが麦の里での生活に慣れ、自我が出せるようになってきたこと、仲間が互いに意識するようになったことでトラブルにつながることが尽きません。その都度職員が仲裁し、当人同士で話し合いをする場を設けました。少しずつではありますが互いに歩みよる姿が見られ、それが増えていくといいなと思います。

今年度途中から午前と午後の報告がＡグループだけで行うようになりました。作業内容を報告するだけでなく、午後の作業に向けた引継ぎ内容も報告しています。集中して他の仲間の報告に耳を傾けることができ以前の報告会よりも意義のある取り組みになりました。（Ｃ・Ｍ）

２、作業活動について

今年度もカネ三、愛新陶器、ミヤトーなどの内職作業と並行して、パン、炭等の自主製品作業に取り組んできました。コロナの影響で、炭やカードといった自主製品やパンは、バザーが中止になり販売の機会が減少しましたが、年度の後半にせとぶれんどからの大量の注文があり、昨年度と変わらない売り上げとなっています。内職作業においては、仕事の依頼が少しずつ増え、仲間にとっても張り合いになっています。しかしその一方で、仲間によって得意・不得意な事あるため、仲間の作業の内容や負担に偏りが生じることもありました。今後も仲間に合わせた作業の組み立てが必要となっています。また、昨年度の課題であった作業スペースの確保については、年度の後半に机を増やすことで、作業する環境を整えることが出来ました。しかし仲間が増えたことで、仲間の相性をふまえて席を配置するなど、配慮が必要となっています。（Ａ・Ｙ）

３、その他の活動について

今年度も、コロナ禍により、仲間のレクリエーションが延期となりました。小康状態にありつつも、まだ予断は許さずに外出ができない状態で、その分、去年度より、例会の活動がレクリエーションの代わりとなって、仲間の案を取り入れて取り組んでいます。

レクリエーションの話はできない代わりに、作業の話や、1日の流れについての話をし、仲間にも加わってもらい、掃除や、昼食のお茶配りのお手伝いをして貰う事になりました。他にできる仕事や、お手伝い等を相談して決めていきたいと思います。（ＹＳ・Ｋ）

◎Ｂグループまとめ◎

１、全体として

今年もコロナウイルス対策もしつつ、外の作業、中の作業と午前、午後と分かれて仲間と話し合い譲り合いという行動も出来るようになりました。今年は納品に車イスの仲間も行けるように普段から行っている仲間が譲ってくれる優しさもみられました。

以前は、２～３種目しかできない日もありましたが、今年は３種目にして職員がいるときは４種目に分けて取り組んでいます。今年は仕込みをＢ組と療護で取り組みをした年でした。

報告会については全体で報告会をしていたものをＢ組で報告会をすることによって来れなかった人が来れるようになり、責任感が持てるようになりました。
全体として報告会がかわったことによって仲間が意識して報告できるようになりました。（Ｔ・Ｙ）

２、作業活動について

作業において、朝自身が決めた作業を仲間たちは責任感を持って行っています。ご本人にとり苦手な作業もあり、その場合には、職員に支えられながらその時間を避けることなく向き合われてきました。

11月から報告会を各グループでするなど日程を新しく改革した時も、今までと違うやり方をすぐに受け入れられました。バリ取り作業も今では順調業に作業れています。麦の里らしい元気な掛け声の響く作業が日々、展開されました。

（Ａ・Ｈ）

３、その他の活動について

今回もコロナ禍の中もあるなか、毎月の例会で仲間達から「やりたいこと」を仲間の会で聴き取り、なるべくその意見に沿った活動を行ってきました。また、職員もBの活動の中身を濃くしたいことから、各個人が担当となった活動についてはしっかりと計画を立て、責任を持ち、感染対策や場所に配慮しつつ、のびのびと活動に取り組んでいます。また、仲間の日課変更についても仲間の会を開催し、説明をして納得をしてもらいました。

現在でも、外出時、麦の里内でもマスクやアルコール等の感染対策活動は積極的に行い、仲間たちも少しづつではありますが、慣れてきています。（Ｔ・Ｉ）

◎療護グループまとめ◎

1、全体として

今年は、作業活動、ボカシの仕込み、廃品分別、とうき割り、いろいろ試した年でした。ひまわりも育てました。仲間たちのやれる事、やれない事が確認できました。

日課の変更があり、朝の会後はふれ足体操、活動後には報告会、午後の活動後には明日やる活動を決めたりしています。

今年から松本OTが月２回来てくれるようになりました。前田PTも変わらず来てくれる中、来年度は体を動かす活動を増やしていきたいと思っています。また、皆が楽しめる車イスダンスも継続していきたいです。（ＹＭ・Ｋ）

2、入浴について

例年通り男性は月木、女性は火金と週２回の入浴に取り組めています。
また、祝日が重なる場合や休んだ仲間の入浴日数を考慮しながら、曜日ではない日でも入浴できる体制で取り組んできました。

浴槽でのストレッチ運動を作業療法士に入ってもらい指導の下、入浴中に出来るストレッチを取り入れ身体の緊張を取る取り組みをしています。

課題として自宅での入浴が出来ていない２名の仲間に対して、本人の尊重をしつつ入浴に繋がるよう傷や皮膚の処置を含め１名は足の洗いと足浴から始めています。もう１名は３月１週目より入浴を開始し週２回の入浴に繋げることができています。（Ｔ・Ｋ）

3、その他の取り組みについて

今年度も入浴を中心に、音楽や紙芝居、絵本の読み聞かせ、体幹遊びなどに加え、かやふきんやアイシン、缶あつめなど作業にも取り組みました。

昨年度後半に１日の流れが変わり、朝の会後に体操を取り入れるなど、新しい活動にも挑戦しています。また、前日に活動の相談することで、仲間達の活動や取り組みの幅が広がっています。（Ｍ・Ｔ）

4、医療的ケアについて

昨年ミキサー食の注入のみになった仲間が経口が少しできるようになり、定時の吸引もなくなり安定するようになりました。仲間は全体的に安定していますが、変わらず体調の変化に気を配りたいと思います。（ＹＭ・Ｋ）

Ⅳ　作業活動について

別紙にまとめました

Ｖ　行事・その他の活動

１、全体として

今年度は昨年度同様、１１月に成人を祝う会を開催し、１２月のもちつき大会を取り止めました。もちつき大会の代わりに毎月の例会活動に力を入れる年になりました。事前に仲間にやりたいこと、やってみたいことを聞いて話し合いの場を作り、予定を立てるなどし、毎月楽しめる例会活動をしてきました。

バザーではコロナウイルスの影響があり、多くのバザーが中止になりました。仲間たちが毎年参加しているものも中止になってしまい、参加する機会がありませんでした。　（Ｍ・Ｔ）

２、仲間たちの行事・活動

①成人を祝う会

今年度は成人の仲間が１名でした。「仲間からの歌のプレゼント」、「生い立ち紹介」、「ビンゴ大会」といった例年同様のプログラムはだけでなく、主役の仲間からご家族に向けたメッセージや療護の仲間との車いすダンスも行いました。仲間たちも当日に向けて練習をし、本番では思いのこもったプレゼントになりました。

また自分で話が出来る仲間だったので自分で話すことで、主役が主人公になり、他の仲間も主人公になることが出来ました。主役の仲間の堂々とした姿に、心温まる会となりました。また、午後から会にしたことで、仲間も集中して参加でき、職員の負担も減りました。　（Ａ・Ｙ）

②各種バザー

今年度も新型コロナウィルスの影響でバザー活動は軒並み中止となりました。自主製品の販売機会が減ってしまったため、ふるさと納税の返礼品として登録したり、メルカリというツールで販路拡大を模索した一年になりました。

あまり外に出かけられない仲間にとっていつもと違う雰囲気を感じ、いろんな人と交流ができる機会でもあります。バザーに行きたいと話す仲間もいて仲間はバザーを心待ちしています。早く今の状況が落ち着いてみんなと参加できる日を待ち望んでいます。　（Ｃ・Ｍ）

③例会活動

月1回、土曜日の麦の会の定例会に仲間の活動として取り組んでいます。昨年度から各クループで仲間の会を開き、やりたい事を聞いて、仲間の希望に沿った活動を行っています。猫砂作りやアイス作りなどの創作系のものから、カラオケや水遊び、盆踊りなどのグループで楽しめるもの、療護の活動としても、スライム作りやアロマ・足浴など、身体で体感できる取り組みができています。

今後も仲間の希望を聞きながら、新しい活動を考えていきたいと思います。

（ＹＳ・Ｋ）

④役員会活動

今年度の６月からメンバーが入れ替わり、医療的ケアが必要な仲間も参加することからナースも毎回活動に参加してくれていました。コロナ禍ではありましたが、感染対策をしっかり行いつつ、役員会を開催することが出来ました。

基本的には感染対策に気を付けながら外にお出かけをしたり、室内活動をしています。活動の内容についても、普段あまり関わり合いの無い仲間たちが少人数で集まり、密の濃い活動を職員たちも経験をすることが出来ています。仲間の参加率もよく、仲間たちは楽しく活動に取り組めています。

（Ｔ・Ｉ）

３、避難訓練について

今年度は１０月、１月に実施しました。えびすの駐車場に避難することが多く現場から避難場所までに距離がありますが仲間達や職員達も慣れてきた様子で、職員間での声掛けが増え、スムーズな避難に繋がっていました。

また、１月の訓練では、防災頭巾やヘルメットを装着して、地震に対する訓練もしています。普段車イスを使っていない仲間の避難の想定など、まだまだ課題はありますが、避難訓練を実施するたびに次に繋げられる訓練を目指して実施していきます。

（Ｍ・Ｔ）

Ⅵ、施設運営について

１．職員体制について

①職員の入れ替わりはあったが、全体としては増員できていて、日中活動の職員は充実してきている。

②グループホームの職員体制としては、まだ不十分で、特に女性の夜勤・遅番・早番については、補充が急務。

③仲間たちの活動については、主任を中心として組み立てができるようになったが、緊急時への対応、作業以外の活動への対応に課題が残っている。

２．事務部門について

年度末に至り、事務員の正職が入職し、来年度からの事務体制の安定が望めるようになった。

ただ、職員体制の中に、間接業務、施設維持業務を組み込んでいることが麦の里の特徴のひとつであり、純粋な事務体制の確立とともに、改めて、職員全体における事務分担、責任分担の構築が求められる。

（Ｔ・Ｗ＆Ｓ・Ｉ）

2021年度　作業別3行総括

◎内職作業◎

○アイシン

昨年度からいただいているＡＣプラスというタブレット入れの内職を中心とした一年でした。シールを入れ忘れたり、梱包時の数の数え間違えがあったりとまだまだ課題がありますが、短い期間に多くの数を仕上げられるようになっています。
廃棄の仕事も引き続きいただいており、陶器を割って廃棄する作業では療護の仲間も携わることができました。

また月に１、２回荷物の運搬作業の仕事の依頼をいただいており、作業内容が多岐にわたるようになりました。（Ｃ・Ｍ）

○カネ三

コロナの影響で頂ける内職の量が減っていましたが、徐々に以前と同じ量の内職を頂けるようになりました。紙包みなど手先の器用さを求めるものもありますが、
箱作り、はがき入れ、商品のチェックなど作業項目が多いので仲間それぞれの得意・不得意に合わせほぼ全員で取り組める内職として位置づけています。（Ｃ・Ｈ）

○ミヤトー

今年度は、請け負う仕事の種類が安定してきたこともあり、新しい種類の仕事にも挑戦しています。納期の短いもの、細かな配慮の必要なものなど、様々なものがありましたが、仲間自身で進捗状況や納期を気にかけることもでき、急な仕事にも対応することが出来ました。作業の種類が増えるとともに、工程も複雑になりつつあるため、より徹底したチェックを行い、より良い仕上がりになるようにしていきたいです。
（Ａ・Ｙ）

○奥村ゴム

Ｒ３年６月から再開した作業です。基本は円盤の形をしたバリや、スリッパの形をしたバリなど種類も豊富にあります。Aグループ、Bグループともに取り組める作業で、手先を使う作業なのでとても重宝する作業です。また、Aグループでは、回数を重ねるごとにペースも上がってきています。Bグループでは、引っ張ってとるという手応えを感じやすい作業で仲間たちも好きな作業です。

１回に１～２千個の単位で来るバリもありますが、皆で協力をして毎週火、金にしっかり納品をすることが出来ています。

現在もコンスタントにお仕事がいただけており、ボカシが付かないように食堂で作業をしたり、マスクを着用してくれる仲間もいます。これからも出来や、納期に気を付けつつ、取り組んでいきたいです。（Ｔ・Ｉ）

◎自主製品◎

○パン

今年度も、コロナ禍の為、毎週木曜日にやすらぎ会館で行われた木曜市は中止でした。バザー・イベントの販売も上半期は中止も多かったのですが、瀬戸市役所で行われる福祉マルシェの開催が11月より再開され、加えて、11月、12月は米粉クッキーの注文もあった為、下半期に売上が伸びました。

昨年度に、1名の正職員がパン作業に加わりましたが、7月に退職されました。
萩山保育園からのパンの注文は、引き続き月に1回の注文を受ける事ができ、仲間もやる気を持って取り組んでいます。
新メニューも1種類、販売できる様になりました。新たな新メニューや再販売メニューを少しずつ、取り入れていきたいと思います。　（ＹＳ・Ｋ）

○パン集計

内職作業が忙しく、自ずと仲間だけで作業をしていることが増えました。作業工程表にチェックしながら作業を進めることに慣れてきたので作業工程の流れをつかめるようになってきました。ミスがあっても仲間で気づき話し合い解決することもありました。パソコンの入力ではセルの幅を調整する、印刷プレビューを確認しながら余白を調整するなどの応用にも取り組んでもらいました。職員が行っていた工程を少しずつ仲間に移行していく余裕も仲間に増えてきたように思えます。　（Ｃ・Ｍ）

○自主製品づくり

年度前半、取り組む時間がありましたが内職が忙しくあまり時間をさけない日が続きました。自分で布を使って小物を作ってきて「これ、商品にならないかな？」と仲間が提案してくれることがありました。自主製品作りを楽しみにしている仲間の姿をみて作業できる時間を作っていきたいと思いました。　（Ｃ・Ｍ）

○炭作業

今年度も新型コロナウィルスの影響からバザーが軒並み中止となり売り上げの主は物資販売と『せとぶれんど』の粗品の注文でした。そのような中でも仲間たちは、「竹取り」「加工」「炭焼き」「製品作り」に取り組んでいます。内職作業中心の中、少数での作業が中心となりました。仲間たちは、加工作業では、身体を動かす良い機会となり、製品作りでは精度も上がってきています。

今年度は昨年度以上に竹取りに行くことができました。加工作業だけではなく、身体を動かす機会が増えました。

また、年度後半に木をたくさん頂きました。来年度は木炭の製造も考えていきます。

来年度は、物資・せとぶれんどだけでなく、販路拡大をしていきたいです。

（Ｙ・Ｍ）

○カード・爪楊枝入れ

今年度は、物資販売やせとぶれんどからの粗品注文を中心に販売しました。物資販売では、「ねぎ」の楊枝入れを新作として出しました。昨年度から続けて作っているもので精度も上がってきています。同時にその他の製品も「工程を忘れないように」取り組んでいます。　（Ｙ・Ｍ）

○ネコミミ

今年度は昨年度の残りが約 350 匹あったことから、約 250 匹分作る事を目標としました。昨年度のうちに今年度分を作る事を止め、今年度に１年を通じて継続した作業にしようと試みました。しかし、コロナウイルスにより招き猫祭りの中止が決まり、ネコミミの状態を考え、今年度の作業は行いませんでした。来年度は、作る個数は少ないものの、A、B グループで作業を分担しながら、取り組んでいきたいです。

（A・Y）

○牛乳パック

昨年度と同様、コロナの影響があり、バザーでの出品が少ない年になりました。
そんな中でも個人で注文してくださる方もいました。
牛乳パックイス作り、特にちぎるという作業は、療護の仲間でできる作業なので、
これからも取り組んでいきたいです。

（YM・K）

○EMボカシ

ボカシ作業には A 組と B 組が協力して作業をする仕込みがあります。B 組の１人あたりの力量によって仕込む量を半分にする事はそのまま継続しています。また、A 組の仲間は個人の希望を朝の会に確認し半分～二箱仕込む仲間もいます。

昨年仕込む量が減った事もあり今年度はB組と療護での仕込みをする日を設け、
週 2 回仕込みを行いボカシの在庫確保に取り組んでいます。

ボカシの担当が 12 月に代わり 2 名となり在庫管理、品質向上を目指していきます。

（T・K）

○生ゴミ園芸

春に苗を買って植えて、夏には週に２～３度、実った野菜の収穫をしていました。夏場には A 組の希望者で水やりを当番制とし、作物の育ち方や収穫のタイミング等を学んでいました。また療護の仲間も日中活動として収穫を何度か行いました。

仲間によって作業の中身を変えながら、収穫した作物は報告会で声を掛け、販売しました。忙しく取り組んでいましたが、秋冬には内職作業が多忙となり、ほとんど
活動できず作物を育てることはしませんでした。ですが、生ゴミは毎日の給食でも
出ますので、月１程度は、土や腐葉土と混ぜ、土づくりをしています。

収益としては今年度約１万円。昨年度よりも４千円減です。来年度はさらに無農薬で美味しい野菜を作物を収穫して、収益をあげられるようにと考えています。

（S・K&G・G）

◎廃品回収◎

○廃品回収

まだ、コロナの影響で、4人までと制限が定着しています。
仲間の方達は、天候に恵まれない日でも、楽しみに作業に参加してくれます。
消毒・手洗い・うがいを徹底して行い、感染防止に努めていきたいと思います。
今後は毎日１件でも多く廃品回収に行けるように、特定の場所を増やしていきたいと考えています。

（O・K）

○アルミ缶回収
晴れたら毎週金曜日にアルミ缶集めをしています。A 組さんも作業に入りますが、忙しい時はB組だけで缶集めをしている時もあり、とても頑張った1年でした。
晴れて暖かい日で裏道コースを療護で挑戦して缶集めをしました。とてもいい顔で作業出来ました。
また、缶つぶし、缶の袋入れ、缶納品にも取り組んで、とても良い表情で作業出来ました。
今年、保護者や地域の方からも沢山缶を頂いて集めることが出来ました。（T・Y）

◎その他の作業◎

○物資の学校販売
昨年度に引き続きコロナ禍での販売活動でした。対面販売には人数制限が発生してしまう学校もありましたが、尽力をしていただき、休止になっていた学校も販売を再開して下さったりしてくれました。売り上げも上昇しています。
仲間たちも、A組が中心に会計～物資の梱包までしっかり作業をしてくれています。卒業生と先生たちとの交流の場にもなる販売の場なので、コロナの終息を願いつつ、今後も継続をしていきたい作業です。
一方で、仲間たちは学校物資のみを取り組んでいますが、物資販売全体をできないかという声もあります。今後の課題となっています。（T・I）

○機関紙作業
年度後半から担当が変わりました。新体制でしたが仲間の作業内容は変わらず、昨年度と同様に安定して折り、丁合、封閉じの作業が出来ていました。療護でも折りの作業を手伝ってもらっています。また、クロスワードづくりも仲間たちは張り切って取り組んでくれいます。（M・T）

○かやふきん
年度後半から担当が変わりました。昨年同様、コロナの影響でバザーでの売り上げがなかったため物資販売、個人販売などが中心の年になりました。
今年度から療護の仲間達にも折り、袋入れをお願いするようになりました。職員での仕上げが必要ですが仲間達も頑張ってくれています。（M・T）

２０２１年度　仲間三行総括

《Aグループ》

ＴＭ・Ａ
　今年度も週４回で出勤しています。成人を祝う会では、自分の目標や、今後頑張りたいことや親への感謝の言葉もしっかり述べることが出来てました。
　コミュニケーションの面では、「自分なりに落ち着ける場所」を少しづつ見つけ始めてきて、「自分で折り合いをつける時間」も出来ています。麦での生活における「見通し」が経つようになって、本人も「仕事」に慣れてきたように思えます。また「仕事への意識」が高くなってきたのか、家での会話でも「今日は〇〇の仕事をやったよ！」と、報告をしてくれているようです。お兄さん気質で、いろんな人のお手伝等をしている場面もよく見受けられ、特に新しく入ってきた後輩の仲間のことは気にかけているようです。少しづつ確実に成長しています。　（Ｔ・Ｉ）

Ｒ・Ｋ
　A組の作業を中心に取り組んでいます。内職作業やパン集計・物資の入力等のパソコン作業など色々な作業に慣れてきました。
　作業中は誰にでも気軽に話しかけて、職場の雰囲気を盛り上げてくれるムードメーカー的な存在です。
　自宅と麦の里の往復について、ここ５年余りは麦の里の送迎車を利用していましたが、運動不足という課題もあり、２０２１年の秋から、家から少し離れた所から歩いて家まで帰り、足の強化運動にがんばっています。　（Ｏ・Ｋ）

Ｍ・ＫＴ
　ものづくりが好きとのことで、昨年度はカードや炭などの自主製品作りが中心でしたが、今年度は内職作業にも挑戦しています。仕事の細かな部分についても、１人で完璧に出来るようになりたいと、何度も自分でやり直しをしながら、どの作業に対しても前向きに取り組んでいます。職員とは話せるようになりつつある一方で、仲間との関係づくりがこれからの課題となっています。　（Ａ・Ｙ）

ＫＮ・Ｋ
　どんな内職の仕事がきても、器用にこなしてくれる仲間です。仕事の説明をすると自分でやり方を考え道具を準備してくれることもあります。
　その日の調子や出来が自分の中で納得いかなかったり、上手くできなかったりすると、苛立ち、商品を壊したりすることがあるので注意が必要です。仲間が増え作業場が少々窮屈になってきたこともあってか、作業中落ち着かないことが目立ちました。　（Ｃ・Ｍ）

Ｓ・ＫＤ
　ダウン症の仲間で心臓の疾患があり、酸素吸入が必要です。麦の里では、パンの作業が中心で、その為、常時の吸入は困難の為、朝・昼・夕方に30分程の吸入の対応をしています。時々、気分の波があり、集中力の維持はその日によって差はありますが、調子のよい時は、前向きな姿勢で取り組んでいます。
愛嬌も良く、職員や仲間とのコミュニケーションも自ら取っています。　（Ｙ・Ｋ）

TS・S

高齢ですが、炭作業を中心に頑張っています。
館内では、杖を使っての移動で歩行に少し不安感もありますが、作業では、集中して取り組んでいます。これからも色々な作業に挑戦できるように見守っていきたいと思います。（O・K）

Y・T

チェックや数えの作業はほぼ間違いなく言ってくれます。ただ作業をこなし、仕上がり等はあまり気にしないところがあります。同じ作業が続くと意見を言ってくることがありますが、なんとか折り合いをつけて仕事に取り組んでくれるようになりました。報告の代表を決める際、仲間と話し合いができるようになり、自ら進んで代表で報告をしてくれたり今年度も新たな姿が見られました。（C・M）

T・T

パン作業が中心の仲間で、手話でコミュニケーションを取っています。作業も、切り分けや包丁を使用した限られた仲間にしかできない作業をお願いしております。一方で、あんぱんの中に入れる餡や、カスタードクリーム作りをお願いしていましたが、腕や肩の痛みの訴えがあり、自らやるというモチベーションが下がってしまい、他の仲間にお願いする事が増えてました。体調面と相談もしつつ、チャレンジして欲しいと思います。

また、パンの作業のない日は、内職作業にも取り組んでいます。本人と相談しながら無理のない範囲で作業に取り組んでもらいたいです。（Y・K）

K・N

今年度もマンツー対応を継続しています。内職や自主製品の作業を中心に取り組んでいます。パニックなど、精神面で落ち着かない日もありましたが、麦の里を休むことはほとんどなくなりました。本人が自信を持ってできる仕事があることで、仕事に向かうことができ、特に活性液づくりに関しては、自分の仕事と考えて積極的に取り組んでいます。（A・Y）

H・H

進行性の病気による歩行時の足のもつれ、ふらつき、移動時の転倒が増えてきました。家でも転倒が増えてきたとご本人はショックを受けているようで、弱気な発言がありました。ボカシの仕込み、廃品回収など身体を使った作業を拒むようにもなりました。作業中に転倒して、肋骨を骨折しています。動かないとますます動けなくなると自覚していいて、無理のない範囲で外仕事には参加しています。
（C・M）

N・M

炭や内職の作業など、取り組むことの多い仕事に関しては、特に責任感があり、自分がやる仕事だと意識が強く、納期や進捗状況を気にかけて、意欲的に取り組んでいます。以前は仕事の変更などがあると、切り替えることが難しいこともありましたが、最近では急な変更であっても柔軟に対応することが出来ています。
（A・Y）

K・M
マンツーマン対応の仲間です。限られた職員だけでなく、他の職員ともコミュニケーションが少しずつ取れてきています。
こだわりが強い日やパニックをする事がありますが、この1年は、大分減ってきました。パン作業は、トイレ以外で部屋を抜ける事が殆ど無くなり、また、その他の作業でも、自分のペース配分で作業に取り組んでいます。（Y・K）

NO・M
週に1回、パンの作業にも入っています。炭の作業で使う不織布をハサミで切るなどのわかりやすい作業を得意としています。パンの作業も、翌日に使う材料の計量や具材の取り分けなどを間違えなくできています。
内職作業等では、自分のペースで休憩に行き、指定した時間に戻って作業に戻ってくるこも多いですが、パンの作業では、休憩に行ってもなかなか戻らず、戻ってきても、終わる頃にパニックしている事が何度もありました。
気持ちが落ち着いて作業できるように環境や声掛けに配慮していく必要があります。（Y・K）

H・Y
家での転倒や腰痛などの身体面での不調があり、休むこともありました。仕事に対しては責任感が強く、特にパン集計やクロスワードの仕事では、自宅で作業をしてくることもありました。他の仲間に対して優しく接しており、周囲の雰囲気を和ませています。車いすに座っていることが多いので、午後には椅子に移って、姿勢を変えるようにしました。蜂窩織炎での皮膚科やその他の体調不良の際の通院にも職員が付き添いました。ご家族も高齢になり、家族介護に限界がきていることもあり、身体の状態を維持していくためにも、本人と相談しながら今後について考えていきたいです。（A・Y）

YK・Y
パン作業が中心の仲間で、力を必要とした作業に実力を発揮しています。グループホームの利用者で、そちらでも料理などをしています。
去年から、力仕事はやりたいという希望がある為、パン作業でも力のいる作業にチャレンジしてもらっています。また、カスタードクリーム作り等を他の仲間に教えることもしていくれています。職員がフォローしながら取り組んでいます。
パン作業のない火曜日には内職などにも取り組んでいます。悩み事も多く、声を掛けながら気持ちの安定を図っています。（Y・K）

《Bグループ》

TK・A
時折、発作等があり、体調の優れない日がありますが、外作業に意欲的に参加しています。週に２回と決まっていますが、車の移動では、笑顔で楽しんでいる様子が印象的です。今後も体調を見守り、１回でも多く外作業に行けるようにがんばってほしいです。（O・K）

E・I

少しずつ作業に集中できる時間も多くなり、バリ取りなど好きな作業は一人で作業するなど、とても器用にこなします。できた物を10個ずつきれいに並べて丁寧に行っています。納品の時は早くご飯を食べるなどして、準備して待つこともあり、本人が意欲的に作業にきています。

また、本人の気持ちのきりかえも早くなりました。
入浴の前後に身体を伸すことも取り入れています。
少しずつですが、やる気を大切にしていろいろなことにチャレンジしてほしいです。

（T・Y）

A・U

その日の作業で自身が何をするのかを朝の会でしっかり把握し、正確に行われています。また毎日の生活の流れの中で、例えばお昼の報告会前に塗布する目の薬のこと、トイレへ行きたい時など、職員に必要なことを口で伝えて、麦の里での生活を送られるようになってきています。午後の廃品や納品の時は車中で楽しく仲間の会話に耳を傾け、時に話に加わり、そんなときには、笑顔がよく見られました。

仲間を意識した話も時折聞かれたので、仲間との関わりの楽しさも間に入りながら支援していきたいです。（A・H）

M・KJ

毎朝、登所してから仕事を選んでいます。毎日、朝の会では、本日の仲間の司会が誰かよく覚えます、最近、朝の会ではラジオ体操が始まりました。すごく興味がありますが、職員が一緒でないと動作が難しそうです。外の仕事が大好きでいつも行きたいと言っています。外の仕事も熱心にやっています。お客さんに大きな声で挨拶しています。また昼ご飯の介助は、どの職員とどの仲間が一緒に食べていますか？午後の職員担当は誰ですか？と気にして質問をします。昼ごはんの後は、療護に行って仲間たちと職員たちと一緒に冗談をいってすごく楽しいそうな表情をしています。これからも楽しい事を一緒にして過ごしましょう。（G・G）

S・KT

最近はアルミ缶つぶしやぼかし等の館内作業を、パート職員と過ごす時間が増えてきています。集中できず、持ち場を離れてしまいますが、職員の声かけと誘導で作業を続けています。

廃品回収を中心に外作業では、他の仲間と協力して、頑張っています。今後は、室内作業でも集中力が持続できるように頑張ってほしいです。（O・K）

Y・KM

「行かない」「やらない」「トイレ」「太陽」という、一見作業や、麦の里での一連の流れから回避するかのような言動も、「レントゲン、終わったよ」、「KMちゃん、作業にい、き、ま、す」という職員からの言葉がけで、頑固に座り込むというようなことも少なくなり、すっと立ち上がって作業室へ向かう姿も多く見られています。

作業も声掛けの中で、例えば１，２，３，と数えながらの缶作業、ボカシの箱入れなど、耳を塞ぐこともあるけれど、やり始めれば多くの作業量をこなされています。ご本人にとって不快な状況などを把握しながら、受容しながら、少しずつ共に出来ることを増やし、行事なども楽しんでいきたいです。（A・H）

ＫＵ・Ｋ
意思表示がはっきりしていて、仕事も自分で選び、「最後まで頑張っている」といった報告もよく聴こえてきます。自分で出来ることも増えてきて、「昼食時には、スプーンを自分で持って、食べたいものを選んで食べる」「朝の会の司会をやり切る」等、見守りや手助けがありつつも、着実に定着しています。まだまだ、できることが増えてきそうなKさん。今後も本人の世界が広がるように支援していきたいです。

（Ｔ・Ｉ）

Ｍ・ＫＫ
一日の作業の決め方で「半日は外作業、半日は中作業」と一日の作業をしっかりと分けて選べられるようになってます。他の仲間と外に行きたい作業がかぶり、
人数を制限しなくてはいけないときは、「ノート（作業の譲り合いや順番を記録するノート）！」と言って、前回の譲り合いの結果や、場合によっては仕事の変更をお願いをすることで、納得して室内作業の変更も応じてくれています。また、最近は話す内容も少しづつ変化してきて、青色での出来事を職員に話して盛り上がることも。ホームでの生活がMさんの発達の糧の一つになっていると実感できます。

（Ｔ・Ｉ）

ＫＳ・Ｋ
昨年度と変わらず、食事や水分の際の飲み込みの状態に注意をしています。
食事後、１５分ずつ両側臥位で休んでもらうなどの取り組みを昨年に引き続き、継続しています。
作業時もよく声が出ていて、手をよく動かしてています。笑い声も聞こえて元気に過ごしています。

（Ｍ・Ｔ）

Ａ・Ｓ
気分の変動が見られる時もありますが、たくさんの職員に声を掛けてもらいながら日常生活を楽しく過ごされています。作業は手先を器用に使われてその時間内を一生懸命集中されており、時には職員に「見て、見て」と言っては励ましを求める姿もあります。食事はなかなか進まない日がありますが、それも職員の声掛けを通して完食することが出来ています。昼休みに車イスから降りて床で過ごすなどの
工夫も今年麦の里ではしてきました。また、脚に血栓が出来て入院されたことも
あり、発作やご本人の訴えにもこれまでのように耳を傾けながら、より体調管理と精神的な支えの在り方を探る中で、何かご本人にとり生活の豊かさに繋がる支援をしていきたいです。

（Ａ・Ｈ）

Ｋ・Ｙ
高血圧、糖尿病の症状があり、バイタルチェック、体重測定を実施しています。体調に不安があるため、館内作業を中心に頑張っています。
体調が安定して外作業に参加できれば、足・腰の強化、糖尿病の改善に繋がれば良いと思います。

（Ｏ・Ｋ）

Ａ・Ｍ
毎朝、Bグループでは一番早く来ています。いい天気の日はにこにこ笑っています。肩のマッサージが大好きです。仕事はぼかしの袋詰めが大好きで機械を使って集中して取り組んでいます。昼ご飯が終わってから療護に座ってA グループの仲間たちと一緒にのんびり休みます。今年も元気に過ごせるように。

（Ｇ・Ｇ）

A・SG

４月より新しく入ってきた仲間です。アンジェルマン症候群という珍しい障害を抱えています。週に４回麦の里に通所しています。通所当時は「不安感」や「見通しが立たない」ことからなのか、「車から降りられない」「ご飯が食べられない」「座り込んでしまう」Aさんのやりたいことや、意思疎通が職員もうまくくみ取れずに、色々話し合いをして、どうすればいいのかを考えながら支援に取り組んでいきました。

マンツー対応を根気よく続け、Aさんに寄り添いながら日々を過ごしていくと、本人も麦での生活のリズムを少しずつ覚えていき、職員もAさんに慣れていきました。食事の完食も増え、車も自分から降りて歩くといったことが増えてきました。作業に関しては、車も好きとのこともあり、初期の頃から廃品や納品は車から降りて運ぶシーンが良く見られました。職員で話し合い、「室内作業に慣れてもらうためにも」という事で、多めに室内作業にも挑戦してもらっています。　現在は、作業室に入って作業～報告までの流れを一緒に過ごすことが出来る日も増えています。パートさんにも果敢に挑戦してもらって、信頼関係も少しづつですが、芽生えてきてます。Ａさんも「見通し」が立つと分かってくれて、リズムに乗ることが出来てきています。笑顔がとってもチャーミングで、職員さんや仲間からも親しまれています。

そんなAさんには今後、外の作業にも積極的に出てもらって、いろんな刺激を感じてほしく、また、いろんな職員さんとも、もっと作業が出来るように、少しづつですが、みんなで協力してAさんと向き合っていきたいです。いろんなことに挑戦することで次の成長が楽しみになる仲間です。　（Ｔ・Ｉ）

Ｔ・Ｍ

前年度発作の検査入院がありその為、今年度は9時30分～13時30分。１１月中旬からは9時30分～15時と時間の変更をしつつ剛さんの体調面に合わせ、活動時間を伸ばしてきました。

排泄に関しては、便座を工夫することでポータブルトイレに座って排尿できています。作業については、今できる事を継続して出来るように促し工夫しながら行っています。また、調子が良い日には職員との会話や仲間と触れ合うことも多くありました。　（Ｔ・Ｋ）

ＹＳ・Ｙ

昨年度から通所の形態が大きく変わり毎週月曜日に1日通所+例会やお楽しみ会への参加といったようになりました。１日の取り組みの内容も、他のB組の仲間たちと一緒に室内作業や、外作業に取り組んでいます。特に外作業では他の職員から「頼もしい」「いてくれて本当に助かった」といった声が上がるほどです。パート職員から「Yさん！これ！お願いします！！」とお願いされると、そのダンボール等をかき集めて持って行ってくれる程、他の人の声掛けも入るようになってきました。

Yさんのモノマネをする仲間やYさんの事を気にかけている仲間も増えてきて、人間関係の輪が順調に広がってきています。今年度の例会の参加率もよく、本人も意外と楽しめている取り組みがあったりと新しい一面をたくさん発見でき、母親同席での仲間の成人を祝う会に参加するという大きなチャレンジもしました。Yさんの持つ力で一緒にAさんのお祝いをすることが出来ていました。

また、ご自宅での生活の様子は昨年度よりも、食事や睡眠のリズムも取れてきて麦の里での活動の後は充実した様子で帰宅し床に就くそうです。

週1回でも麦の里に来ることを嫌がる様子も少なくなってきており、スムーズに納得して、様々な事に取り組んでいます。Yさんの、麦での活動や例会の時間を今後も大切にしていきたいです。（T・I）

《療護》

J・I

今年度も一度も通所できずでしたが、仲間達でお手紙を書いて届けるなどしています。（YM・K）

S・K

今年度、肺炎の疑いで１１月に入院することがありましたが、現在は元気に麦の里に通えています。麦の里で喘鳴音がすることはありますが、姿勢を変えるなど吸引する以外で対応しており、吸引する回数は減っています。また、発作、不随意に関しては、職員が対応になれてきたこともあり、落ち着いてきています。

ご本人が麦の里で過ごすことに慣れてきたこともあり、訴えが徐々に出てくるようになりました。（M・T）

Y・KT

昨年度から入所施設に入所しています。コロナの影響で入所施設から外出できない状態が続いています。（M・T）

T・K

日中パンツから常時オムツへ変更になっています。トイレでの姿勢保持は変わらず、前田PTと相談し便器での排尿を促しています。また以前は全介助で食べていた昼食は左手を使って自分で食べられるようにしています。

発作や朝起きないとお休みすることはありますが、大きな入院などはなく体調的には安定して通所できています。（T・K）

E・K

職員と話すことが大好きでいつも笑顔。

安全なところでは１人で歩くこともできますが注意が必要なところが大きいです。３月、お母様が亡くなり生活が大きく変わりました。（YM・K）

TK・S

這うことが大変な時期がありましたが、今は這うこともできるようになり、作業室でのチラシちぎりはとても得意です。今は、療護でも作業をすることが多くなり、皆の輪の中に参加しています。今年は野菜や花を育てて収穫したり、花に水やりをしたりと様々な活動に参加しました。（T・Y）

M・T

痰がらみが減ったことと、うつ伏せ寝にて自己排痰出来ることで、痰吸引を５月６日頃よりなくしました。また２０年７月２５日肺炎にて入院後より経口摂取を一度見合わせていましたが、本人の食べたい意思や家族との相談にて、経口摂取を２１年５月１０日より再度開始しました。毎回看護師の食事介助にて、安全に食べることが出来ています。

今後も継続して本人の食べたい意思を大事にして経口摂取の継続をしていけたらと思います。（Ｔ・Ｋ）

N・T

トランポリンがすごく気に入って、自分から乗るアピールをするようになりました。とても積極的です。また、車いすを見つけるとすぐに乗りたくなり、行動する場面が見られます。仕事も少しずつやれるようになってきています。いつもクールな一面もありますが、表情が少しずつ出てきていると思います。今後が楽しみです

（Ｔ・Ｙ）

T・N

今年度は体調を大きく崩すことなく、安定して麦の里に通えています。
定時の吸引に加え、午後しかしていなかった吸入を午前も追加しています。また、うつぶせ寝を取り入れることで自己排痰を促しています。姿勢を変えることで目線もかわるのでうつぶせ寝だけではなく、側臥位なども取り入れていきたいです。

また、昨年度から取り組んでいる車イスダンスや体感遊びなどは継続しており、ご本人も楽しそうに参加しています。（Ｍ・Ｔ）

G・H

今年度、薬の変更があり、発作の種類が硬直発作から脱力発作にパターンが変わってきました。発作の回数は以前より減りました。日中起きている時は、職員とよく目が合い話をしています。活動としては座位保持、背中のほぐし方をOTに教えてもらい取り組んでいます。（ＹＭ・Ｋ）

R・Y

コロナの影響で、今年度も一度も通所することができませんでした。
お会いすることを楽しみにお待ちしております。（Ｔ・Ｍ）

R・W

体調面の変化はなく健康に毎日利用されています。
日中の活動時床に降りて過ごすことは継続しており、Ｒさんから仲間や職員に近づき「遊ぼう」と関わりをもとうとすることもあります。しかしその際、力加減が難しい場合もある為近くで見守りを行っています。

仕込みの際は療護も参加するようになり、療護以外の仲間と触れ合う機会も増えたことや、療後での外での活動で芝や地面に座ったり、慣れていない所でも職員がいることで過ごせています。（Ｔ・Ｋ）

2021(R3)年度　事業総括

共同生活援助事業　七色の麦

1、仲間ひとり1人の生活スタイルの確立

①赤・緑・青色の麦の仲間の個々の生活リズムを安定させたい

・赤・緑色の麦では、メンバーの生活リズムとしてはよく安定してきている。睡眠に課題のある仲間、水分補給に課題のある仲間なども大きな問題になることなく一年を過ごせた。

・青色の麦は、よく落ち着いており、食事の手伝い、食後の時間の過ごし方などで、リズムが確立できた。

②赤・緑色の麦の４泊５日の実現と青色の麦の４泊５日の継続

・両ホームとも、４泊５日を年間を通じて継続できた。また、祭日のある週でも、月曜祭日の夕方からホームを始めるなど、ホームの実施日時をさらにのばすことができている。

2、集団生活の中で「ルール」作り

①　仲間同士の関係を深めていくことを大事にしていく

・赤・緑色の麦は、言葉がない仲間が多い中でも、アマゾンプライムでリクエストをつのって一緒に楽しむ時間を作る事ができました。リモコンをめぐってケンカもおきましたが、仲間同士の楽しい関係をすすめることができています。

・青色の麦は、調理などでは役割が定着しました。また、お手伝いだけでなく、トランプやゲームを一緒に楽しむ時間を作る事ができました。

②　集団の中にも仲間の「個」の部分に関しても大事にしていく

・赤・緑色の麦は、仲間たちから提案があって、夏のかき氷やクリスマス会が実現し

ました。行事だけでなく、じょくそうや水虫など、継続したケアが必要な仲間が多く、職員間の申し送りを特に注意し、ほとんどの仲間で改善が見られています。

・青色の麦は、トランプをしたい仲間が、他の仲間にお願いができる関係を築けています。また、買い物への対応、食べられない物への対応など、きめ細かい対応を続けました

3、体験利用の仲間たちの定期的な受け入れ

① 体験利用の仲間たちの生活リズムを安定させていく

・体験利用の再開は実現できた。ただ、新しく利用希望のある体験の仲間への対応はできなかった。また、年度末に、母親を亡くした仲間が出た事から、この仲間を体験利用として受け入れ続ける必要ができた。新年度も体験利用枠を一時つぶしても対応を続ける必要がある。

4、職員体制の確立と業務の確立

① 連絡体制の確立

・毎朝の申し送りを副施設長に固定する事により、職員間の連絡・申し送りの体制がようやく安定した。
・ホーム職員の職員会議は、年度総括のための2回の開催にとどまったが、その会議自体は大変に好評だった。

② 職員確保

・コロナの影響から、週に2回必ず夜勤をしてくれていた女性準正職員が夜勤に入れなくなり、また、女性正職員が一人12月末で退職したことから、シフトづくりに苦労した一年だった。6月に入った女性正職員が夜勤に入り、9月に入った女性正職員が早番・遅番に入る事で、なんとかシフトは維持できている。
・また、青色の麦では、二人の職員で4泊のシフトをこなし、安定している。

③ 緊急対応の体制づくり

・ホームの特性として、急な泊まりへの対応、コロナへの対応など、柔軟な体制づくりが必要であることを痛感した1年だった。
・現在のところ、緊急事態への対応は、理事長・施設長等の役員が中心になっているのが実情。幸いなことに、緊急対応をいとわない職員も多数いるので、来年度にかけて、その職員の柔軟な活用体制の構築が必要になる。

2022(R4)年度　事業計画

共同生活援助事業　七色の麦

1、仲間ひとり1人の生活スタイルの確立

①個々の生活リズムの安定

週に一泊の仲間、泊まれない仲間がいる。週末に家に帰れない仲間もでてきている。その仲間たちのリズムにあわせて七麦をつかってもらっていく。

生活の場なので、個々が身につけているやり方を尊重していく。

②赤・緑・青色の麦の4泊5日の継続と緊急時の対応もしていく

4泊5日の継続と、祭日にも半日開催できるように日程を作っていく。また、緊急時の対応がますます求められるようになってきている。できる限り対応していく。

2、集団生活の中で「ルール」作り

①　集団生活の中で仲間同士の関係を深めていく

七色の麦ではカラオケ、青色の麦ではトランプなど、仲間たちが複数で楽しむことが増えてきている。トラブルがないわけではないが、見守りながら、取り組みを続けていきたい。

②　集団の中にも仲間たちの自発的な取り組みを大事にしてく

クリスマスがしたい、誕生日がしたい等の行事をおぼえて仲間たちから提案が出ている。

また、麦の里まで歩きたい等の希望もあり、できるだけ対応していきたい。

３、体験利用の仲間たちの定期的な受け入れ

①　体験利用の仲間たちの安定して七麦で泊まってもらう

・母親を亡くした仲間をまず優先して体験利用を使ってもらう。その間、他の仲間の体験利用は停止してもらうよう麦の会のなかで話してもらっている。この仲間については土日の利用も含めできる限り対応する。

・ただ、この間の話し合いの中で、体験利用の希望が大変に高いことも痛感されており、従来からの体験利用の早期の復活と新規の体験利用の拡充が急務となっている

４、緊急時の対応できる体制づくり

・昨年度の総括からも明らかなように、ホームの運営は、親の病気、コロナへの対応等、常に緊急事態に備えることが必要。
・気持ちのある職員も多いことが分かったので、泊数の増加も含め、３６５日対応のホームの準備につなげていく。

５、職員体制の確立と業務の確立

①　連絡体制の確立

・七色の麦の職員会議を年に４回程度は開催したい。
・申し送り事項を翌日、翌々日の職員にも伝えられるようにしていく
・ホームからの報告が、日中の職員に連絡されていないことも多かったので、改めて連絡に注意する。

②　職員確保

・緊急対応の要請が急増しており、夜勤のできる職員の確保がぜひとも必要。
・同時に、今の職員で、夜勤をできる人の養成も必要。

《青色の麦》

K・Y

ホーム利用が3泊から4泊に移行してから安定感が出てきた印象です。ご自宅での過ごし方と変わらないのでは…と感じる程、普通に生活されています。食事を用意してくれるスタッフさん、毎朝コーヒーを淹れてくれる竹子さんに見守られながらの日々。言葉の発達も見受けられ、発音も明瞭になってきました。尿失禁も朝の6時に声かけし、トイレに行く事で心配のない毎日を送れるようになりました。

ホームでは末っ子で愛されキャラ。隣の居室の誠さんも刺激し合いながら穏やかに生活を送っています。

ご自身の気持ちをもっと表現できる様になってほしいな…と日々楽しく語り合いをしています。笑顔が多く見られる様になりました。 (Y・S)

K・M

よく笑い、よくしゃべり、しっかり寝て食事はいつも完食。作業にも意欲的、理解力もばつぐんの誠さん。トイレも洗面所も簡単に移動することができますが、どうしても苦手なことがあります。予測していない事やふたつの事が同時に起こる事。思い通りにならない事は苦手です。

他人を思いやる事、待つ事。譲る事、我慢する事を遊びや生活の中に取り入れ、基本楽しく、元気に過ごしています。職員がいなくても出来るよね？を合言葉に少しずつ自立に向けて進んでいます。 (Y・S)

T・T

最近は自分でご飯の量を減らして、「これだけでいいから」と笑っています。

週末のお出かけや長期休みの過ごし方など、生活が安定して、気持ちのうえでも穏やかに生活できているようです。激しく怒るような事はすっかりなくなりました。ご姉妹が亡くなって、寂しさがありますが、安定してすごせた1年でした。 (S・I)

NO・M

いつも穏やか、変わらず安定…がここのところの印象です。ホームでの生活が始まった頃は、食事が口に合わず「食べれん！」と言われることもありました。今は少しずつですが、直哉さんの嗜好に合わせての調理の工夫が出来る様になり、完食が続く事が多くなりました。生活のリズムも安定、時々、他の仲間との関わりで戸惑う様子は見られますが、笑顔で乗り切れる事が多くなりました。男性職員とボールを蹴り合ったり、誠さんと神経衰弱をしたり、リビングで過ごす時間も長くなっています。

困った事があっても職員がなんとかしてくれる…と信頼感を抱いてくれているのでしょう。鉛筆削りがなくなった！ノートが残りわずか！のピンチの時は、元気に走って知らせにきてくれます。 (Y・S)

Y・Y

お手伝いに積極的で、夜は、職員に手紙を書いたり、工作をして職員にプレゼントしたり、と大変に優等生の生活ができています。街にどうしてもでかけたくなってしまう休日の過ごし方が長期的課題になるだけ、とも言えます。

毎日の生活では、ホームで麦の里でのグチを聞いてもらい、励まされて、また明日の仕事にむかうというサイクルができています。話を必ず聞いてもらえる事で、気持ちの安定がはかれているように思います。 (S・I)

《赤色の麦》

A・U

保湿ケアは薬を試行錯誤して現在の形に落ち着いています。乾燥やアレルギーもあるので今後も観察を行っていきます。入浴時間は仲間のKさんと一緒に出掛けたいときは、「ご飯のあとに入る」と自分で選んでいて成長を感じます。食後はAmazon musicで童謡や演歌などをリクエストして一緒に歌ったり、好きなテレビ番組の放送をよく知ってしてみんなと視聴しています。イベントはやはり音のある花火大会がとても楽しかったようです。これからも本人の「やりたい」とい気持ちを大切に支援していきたいと思います。　(A・Y)

S・K

酸素は極力吸入してもらっていますが、SPO2値が70～80台のことも多く気掛かりです。七麦開所当初は不定愁訴もよく見られましたが、最近は随分落ち着いてきました。体調不良や仕事のことで時々悲しくなることもありますが、職員に話をして気持ちを切り替えることができるようになってきました。Amazon　prime、musicが好きで仲間に意見を聞いてから視聴しています。音楽も自分の聴きたい曲のリストを作り、仲間と順番に聴いています。イベントも大好きで「もうすぐだね」「飾りつけしよう」など本人のやる気のモチベーションにもなっているようです。　(A・Y)

C・S

歩行は良好です。入浴時間ではないのにお風呂の方に向かって行ったり、入浴後に青麦に散歩に出掛けたりと活動的な場面もあります。お風呂の場所もわかるようでユニットバスのときには手前の入り口からスムーズに入っていきます。仲間からよく声をかけられ、時々職員に抱っこされて気持ちよさそうに首をフリフリしています。　(A・Y)

N・T

テンションが高くてなかなか眠れない時もありますが、眠剤服用により睡眠が確保できています。階段をあがる時に左腕が拘縮して手すりを持とうとしないので何とか伸ばして持ってもらうようにしています。ジブリの曲などが好きで、声をよくだして楽しそうにしていることがあります。　(A・Y)

G・H

顔を覗き込むと目をそらしていましたが今ではしっかり目を合わせてくれこちらを認識してくれているようです。入浴時に湯舟では文字盤に興味があるようでいつまでもじっと見ている時が多くあります。発熱によりお休みしたことが一度ありましたがそれ以外では元気に七色の麦で過ごせています。体調も安定していていいように思えます。　(H・A)

《緑色の麦》
◎レギュラーメンバー◎

KU・K

自ら進んでコップ洗いの手伝いをしてくれたり食事のとき使ったハンカチを自分でワゴンの上に置いたりと自分でできることは言われなくてもやってくれています。食事も自分で上手に食べることが出来るようになってきています。週に3泊の時は「木曜日、お家に帰りません」と必死で訴えていました。本人も七色の麦での生活を楽しんでいるようです。色々とこだわりがあり難しい時もありますが理解しつつもっと出来ることを探していきたいです。

(H・A)

K・N

他の仲間の手や頭に触れながら「〇〇ちゃん」と優しく声をかけてとても優しい一面を見せてくれます。備品など不足している物や不要についている電気などがあるときにはすぐに気が付いて教えてくれたりと細かい所にもよく気が付きます。
数ヵ月ほど前から不調が続き早目に帰宅したりお休みすることがありましたがここ最近は普通に七色の麦に行けるようになっています。まだお風呂には入れてないので引き続き声掛けをしていきまた入浴できるようにできることが課題です。 (H・A)

T・M

今年度前半はなかなか体調が安定せず、宿泊することができませんでしたが年度中盤から少しずつ、七色の麦での食事、入浴をしてもらい年度後半には看護師の在中している火曜日に宿泊することができました。宿泊できるようになってからまだまだ剛さん自身も慣れておらず、睡眠時間が短いなど課題はありますが、お母様と相談し、服薬のタイミングなどを調整するなど剛さんに合わせた介助を考え、実施しています。 (M・T)

A・M

入浴が大好きで、ダイナミックに顔をつけて遊んでいます。ゆっくり湯船につかるのが好きでのんびり入っています。最近は職員の手を引っ張り湯の中でゆらゆらするのがお気に入りの様です。夕方に入浴すると、夕食後にトイレにいきそのまま自室にいき就寝するのがパターンになっています。夏の花火大会では明るい花火のほうに近づこうとしたり、本人なりに花火を楽しんでくれたようです。 (A・Y)

◎体験メンバー◎

T・A

月１回の利用で大分慣れてきましたが課題として、ホームの後麦の里にて発作が多くなってしまったり、自宅にて排便の失敗があったりとしています。排便に関してはホームの朝食後に排便を促すようにトイレ誘導を毎回行っています。
発作に関しては夜間の睡眠が浅くしっかり眠れていないこともあり体力的な回復ができてないことでおこることがあります。夜間の睡眠時間が課題となっている　(T・K)

Y・KT

今年度は、昨年度に続き、こばとに入所しているため、七色の麦も利用していない。
(Y・M)

R・K

七色の麦の体験利用も慣れたようで楽しく過ごせている様子です。他の仲間からも人気があり体験利用ながらも中心的存在で明るくなります。積極的に職員とも話をしています。歩行に心配な面もあり特に入浴時の移動には本人も慎重に移動しています。就寝時には足の冷えをとても気にしていますが毛布を巻くことで安心して眠れるようです。　(H・A)

KS・K

以前は七色の麦に到着したときけわしい顔で緊張した表情をしていましたが最近では笑顔での到着です。七色の麦での体験利用を重ねることですっかり慣れてきた様子です。他の仲間達と音楽を一緒に聴くときはとても楽しそうに大きな声を出しています。声掛けすると元気よく反応してくれることも多く楽しく体験利用ができているようです。食事もムース食に替わりとてもおいしそうに食べてくれています。　(H・A)

E・K

七麦では午睡をせずに元気に過ごしています。好きな職員には声をだして体を擦りすりして甘えています。入浴時には他の仲間が気になるのか自分から近寄ったりする場面もあり、職員もマンツーになれるひと時なので手遊びなどして過ごしています。
年度末に母親が亡くなりました。週末も麦の里で過ごすことが多くなりましたが、元気に生活してくれています　(A・Y)(S・I)

A・S

10月に血栓で入院をしましたが、現在は元気に過ごしています。仲間の会の司会のアシスタントをしてくれたり、お手伝いも「Aがやる」と張り切って参加しています。歌も好きで、床に下りてAmazon　musicで自分の好きな歌をリクエストして一緒に歌っています。寝つきが遅く、覚醒もあるので睡眠時間は短いですが、眠そうな感じもなく職員と会話しています。
(A・Y)

M・T

今年度からムース食が開始され、経口からも少しとれ、みんなと一緒に食事ができるようになりました。吸引することも少なくなり、安定して生活できています。　(YM・K)

R・W

今年度も昨年度同様に体験利用を使ってはいない。　(Y・M)

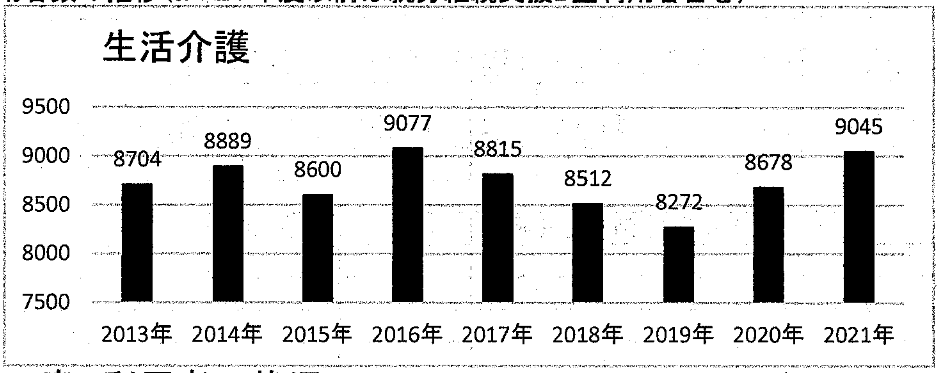
2021年度事業報告（利用実績等）

1、麦の里　利用契約者の状況

（内3名は利用実績なし）

2022.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市中核市	男								
	女			1					1
その他県内市町村	男		4	10	8	2		1	25
	女		2	7	2	1	1	1	14
愛知県外	男	1	1						2
	女		1						1
合計	男	1	5	10	8	2		1	27
	女		3	8	2	1	1	1	16

年間利用者数の推移（2020年度以前は就労継続支援B型利用者含む）



2、七色の麦　利用者の状況

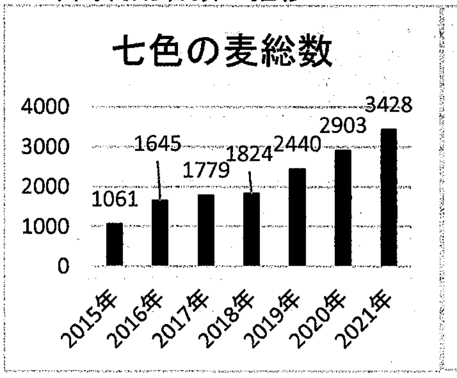
入所メンバー

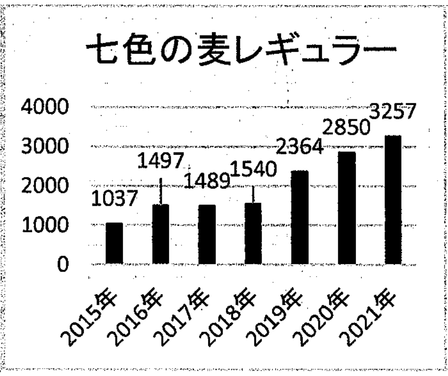
2022.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市中核市	男								
	女			1					1
その他県内市町村	男		1	3	4				8
	女			2	1	1		1	5
愛知県外	男								
	女								
合計	男		1	3	4				8
	女			3	1	1		1	6

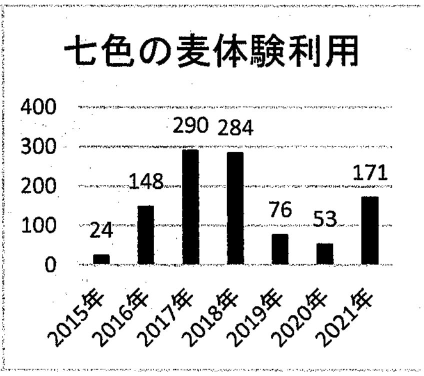
体験入所メンバー

2022.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市中核市	男								
	女								
その他県内市町村	男		3						3
	女			3					3
愛知県外	男		1						1
	女								
合計	男		4						4
	女			3					3

年間利用者数の推移







3、生活介護麦の里

① 利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計開所日数
開所日数	23	21	24	22	24	22	23	22	21	22	21	24	269

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	39	39	39	39	39	39	39	40	40	40	40	40	39.4

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	775	674	815	740	752	745	765	746	760	736	695	842	9045
利用率(%)	84.2	80.2	84.9	84.1	78.3	84.7	83.2	84.8	90.5	83.6	82.7	87.7	84.1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
欠席加算数	13	10	13	13	13	13	15	17	16	13	20	11	167

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
入院者数							1	1	1			1	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延長支援者数	1		1	1		1	3	1	2	2	2		14

2022.3.31現在		瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	他	合計
利用者の住所地	男	19	2	3	1		2	27
	女	7	3	1	1	1	3	16
内新規利用者数							1	1
内退所利用者数								

	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
障害支援区分	4/1現在			1	3	7	6	25	42
	3/31現在			1	4	7	6	25	43

2022.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男	1	5	10	8	2		1	27
	女		3	8	2	1	1	1	16

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
送迎利用者数	38	38	38	38	39	39	39	39	40	40	39	40	38.9

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
送迎利用延数	1348	1150	1459	1297	1325	1310	1371	1317	1381	1324	1261	1474	16017

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
給食数	693	587	759	660	674	687	711	694	714	638	608	741	8166

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
入浴利用者数	10	10	10	10	11	11	10	10	10	10	10	11	10.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入浴利用延数	74	61	68	70	73	70	67	77	69	69	62	75	835

	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数
医療的ケア	吸引(口腔内)	4	酸素吸入	1	服薬管理	16
	吸引(鼻腔)	3	ﾓﾆﾀｰ管理		創傷処置	
	吸引(気管切開)		じょくそうの処置	1		
	経鼻経管栄養		疼痛管理			
	胃ろう栄養管理	4	インスリン管理			
	点滴		導尿	1		
	ネブライザー	3	浣腸			
	気管切開のケア		摘便			

	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数
理学療法	ストレッチ指導	9	筋緊張の緩和等	8		
相談及び対処	補装具等の調整	11	自助具の開発等	7		

②職員の配置状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員数	48	49	48	48	47	48	48	47	47	46	47	46	47.4

常勤換算数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
管理者	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
サービス管理責任者	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9
生活支援員	20.7	20.5	20.9	20.2	18.7	19.3	19.4	19.4	19.6	18.7	19.7	19.4	19.7
医師	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
看護師	1.5	1.5	1.4	1.5	1.4	1.6	1.6	1.5	1.7	1.4	1.4	1.3	1.5
理学療法士	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
作業療法士	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
直接処遇職員	22.4	22.2	22.5	22.0	20.3	21.1	21.3	21.2	21.5	20.3	21.3	20.9	21.4
事務員	1.5	1.5	1.5	1.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	0.7	1.5

常勤換算数は、0. 1未満は0. 1と表しています。その他は、小数点第2位以下切り下げしています。
直接処遇職員数は、国の定めにより算出した数であるため、生活支援員等の合計数と異なります

4、共同生活援助七色の麦

① 利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計開所日数
開所日数	23	19	22	21	21	20	21	23	20	20	24	31	265

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14	14	14	13.7
体験利用者数	6	7	6	6	6	6	5	6	6	6	6	6	6.0

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	272	238	284	265	273	261	274	281	261	265	271	312	3257
体験延利用者数	12	14	12	12	12	12	10	12	12	12	16	35	171
合計延べ利用者数	284	252	296	277	285	273	284	293	273	277	287	347	3428
利用率(%)	82.3	88.4	89.7	87.9	90.5	91.0	90.2	84.9	91.0	92.3	79.7	74.6	86.2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重度支援対象者	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医療連携者数													

2022.3.31現在		瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	東郷町	合計
利用者の住所地	男	6		1	1			8
	女	3		1		1	1	6
内新規利用者数								
内退所利用者数								

2022.3.31現在		瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	その他	合計
体験利用者の住所地	男	2	1				1	4
	女	2			1			3

※今年度体験利用者

	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
障害支援区分	4/1現在			1		3	1	9	14
	3/31現在			1		3	1	9	14
体験・支援区分	人数					1	2	4	7

2022.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男		1	3	4				8
	女			3	1	1		1	6

2022.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
体験利用者年齢構成	男		4						4
	女			3					3

②職員の配置状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員数	27	27	26	26	25	25	25	27	27	26	27	28	26.3

常勤換算数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
管理者	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
生活支援員	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4	4.3	4.5	4.2	3.9	4.0	4.4	4.6	4.4
世話人	3.4	3.2	3.1	3.2	3.2	3.1	3.3	3.5	3.4	3.5	3.3	3.4	3.3
夜間支援員	1.9	1.9	1.8	1.9	1.8	1.8	1.9	1.8	1.8	1.8	1.9	2.0	1.9

常勤換算数は、０．１未満は０．１と表しています。その他は、小数点第2位以下四捨五入しています。

5、その他の職員配置

実数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
運転手	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3.7
ハウスキーパー	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	3	3	2.8

6、職員総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
職員実数	54	55	55	53	52	53	53	52	52	51	53	52	52.9
内嘱託医	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
内派遣職員数(ｼﾙﾊﾞｰ含む)	3	3	2	2	2	2	2	1	1	1	2	2	1.9
休職職員数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
月全休職員		1									1	1	
内月途中採用職員数	1	1	2			1				1	1		
内月退職職員数		1	2	1					2		1	1	
給与支払い職員数	49	49	51	49	48	49	49	49	49	48	48	47	48.8

2022.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
正職年齢構成	男		1	4	1	3			9
	女		1	4	2	3	1		11

2022.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
ﾊﾟｰﾄ年齢構成	男				1	2	3	3	9
	女		1	1	6	4	6	1	19

※月全休職員含む

2022.3.31現在		1年未満	3年未満	5年未満	7年未満	9年未満	9年以上		合計
正職在職年数	男		2	1	2	2	2		9
	女	2	2	1		2	4		11

＊ 麦の里ﾊﾟｰﾄから正職員採用した場合、期間は継続で計算

2022.3.31現在		1年未満	3年未満	5年未満	7年未満	9年未満	9年以上		合計
ﾊﾟｰﾄ在職年数	男		2	1			6		9
	女	3	1	2	2	3	8		19

※月全休職員含む

7、職員　各種資格取得の状況

	正職員	ﾊﾟｰﾄ		正職員	ﾊﾟｰﾄ	派遣
社会福祉士			ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	6		
介護福祉士	8	1	相談支援専門員	4		
精神保健福祉士	1		理学療法士		1	
ヘルパー1級	1		作業療法士		1	
ヘルパー2級	3	8	看護師・准看護士	1	1	
介護職員初任者研修	1	1	視覚障害者移動介護従事者養成研修	1	2	
強度行動障害・基礎	8	3	同行援護従事者研修			
強度行動障害・実践	8	3				

8、新型コロナウイルス感染症の影響

利用者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
陽性者数												1	1
濃厚接触者数										1	1	1	3
利用自粛者数	6	1		1		1				7	3	7	26
利用自粛延べ日数	13	18		3		5				21	13	30	103

※濃厚接触者の内、「疑い」はカウントしていない。

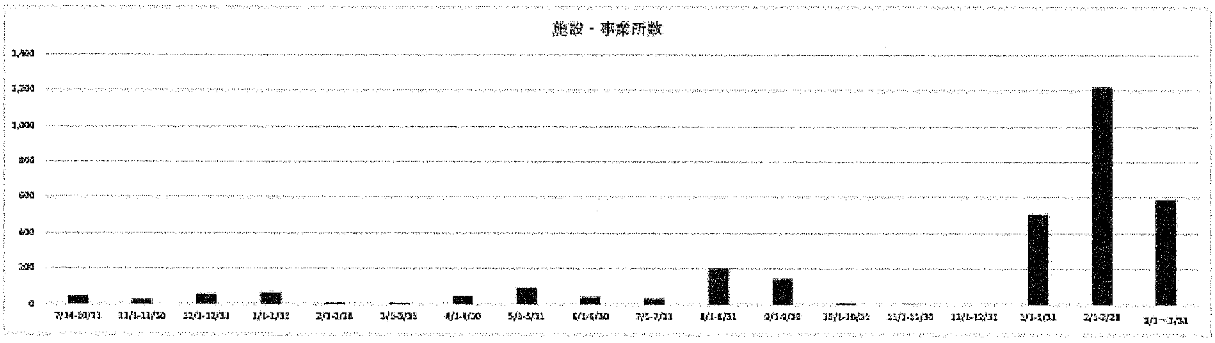
職員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
陽性者数											2	2	4
濃厚接触者数										5	1		6
子の看護	1	1				1	1	1	1		1	1	8
休業者数	1	1				1	1	1	1	5	4	3	18
休業延べ日数	2	4				3	1	1	1	12	27	18	69

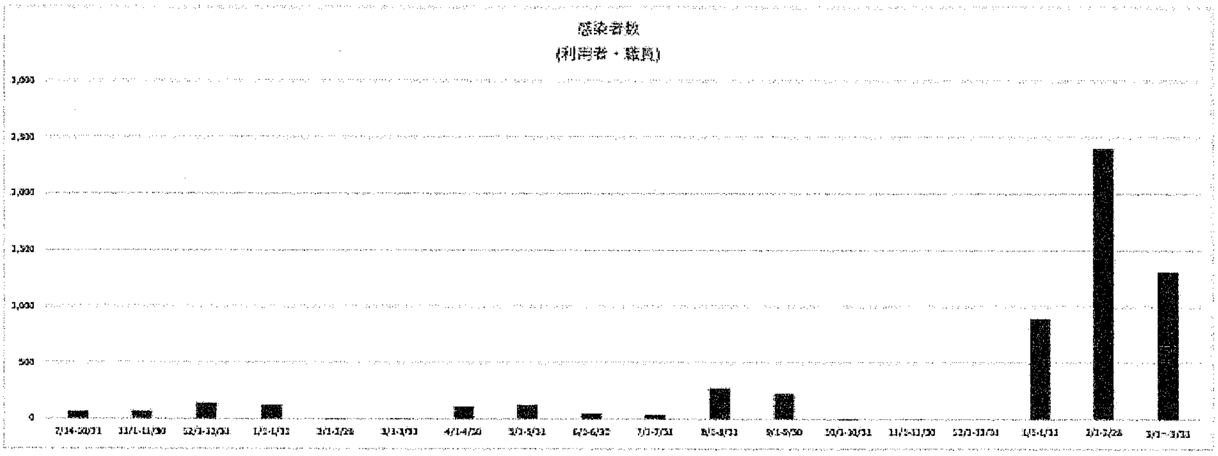
※濃厚接触者は、「疑い」で休業を要請した職員を含む。

参考

障害者施設における新型コロナウイルス感染者数の推移（2020/7/14（第２波発生）～2022/3末現在）

区　分	7/14-10/31	11/1-11/30	12/1-12/31	1/1-1/31	2/1-2/28	3/1-3/31	4/1-4/30	5/1-5/31	6/1-6/30	7/1-7/31	8/1-8/31	9/1-9/30	10/1-10/31	11/1-11/30	12/1-12/31	1/1-1/31	2/1-2/28	3/1～3/31	計
施設・事業所数	45	24	59	67	10	8	47	90	41	31	200	144	11	1	0	508	1,221	590	2,507
感染者数（利用者・職員）	68	72	147	122	11	9	113	126	54	38	278	226	11	1	0	897	2,404	1,312	4,577





社会福祉法人麦　２０２１年度法人本部事業総括

１、法人運営

１）理事会・評議員会

理事会	2021年5月20日	1，評議委員選任解任委員会報告 2,2020年度事業報告案 3,2020年度決算案 4,監事監査報告 5,第2期評議員選任解任委員の選任 6,麦の里2階LED化工事請負業者の選定 7,職員について 8,理事長業務報告 9，評議員会の議題
評議員会	2021年6月24日	1,第9期評議員の選任結果について 2，2020年度事業報告 3,2020年度決算 4,監事監査報告 5,第10期理事及び監事の選出
理事会	2021年6月24日	1,理事長の選出 2,第2麦の里用土地購入の件
理事会	2021年10月21日	1,土地購入の件 2，民間補助金を活用した備品の整備について 3，9月末予算執行状況及び第1次補正予算案 4,職員の社会保険料徴収金の誤りについて 5、各種指針・マニュアルの整備、各種委員会の設置について 6,七色の麦高圧電力への切替について 7、職員について 8、理事長業務報告 9、評議員会の議題
評議員会	2021年10月21日	1，土地購入の件 2，民間補助金を活用した備品の整備について 3，9月末予算執行状況及び第1次補正予算
理事会	2022年3月24日	1，第2麦の里用地取得にかかる理事長との金銭消費貸借契約について 2，3月10日現在予算執行状況及び2021年度第2次補正予算案 3，2021年度総括及び2022年度事業計画案 4，麦の里1階LED化工事請負業者の選定等 5，拠点区分間繰入金規定の整備について 6，2022年度予算案 7，就業規則等の改正８，自家用車両登録規定(マイカー通勤登録)について 9，評議員会の議題
評議員会	2022年3月24日	1，第2麦の里用地取得にかかる理事長との金銭消費貸借契約について 2，3月10日現在予算執行状況及び2021年度第2次補正予算 3，2021年度総括及び2022年度事業計画 4，麦の里1階

LED 化工事請負業者の選定等 5，拠点区分間繰入
金規定の整備について 6，2022 年度予算

2） 監事監査

2021 年 5 月 11 日に実施

3）評議員選任・解任委員会

2021 年 5 月 21 日理事会において第 2 期評議員選任解任委員を選任しました。

2、事業計画

1） 短期計画（1 年～2 年）

第 2 麦の里用地を取得しました。

麦の里・七色の麦の防災グッズは、瀬戸市からの配備は望めないため、防災用毛布 30 枚、防災用レジャーシート 30 枚、防災ｱアルミブラケット 90 枚、ヘルメット 30 個、防災頭巾 10 枚、軍手 720 双を整備しました。

備蓄食料・備蓄飲料水について一部を更新しました。

麦の里 2 階 LED 化工事を行いました。

麦の里駐車場用地の整備を行いました。

公益財団法人 JKA の補助金で麦の里・七色の麦にｵｿﾞﾝ発生器を 15 台配備しました。

公益社団法人愛知県看護協会の補助金でエアートランポリンを配備しました。

瀬戸市からの貸与で、麦の里・七色の麦にサーマルカメラ、02 メーター、ホワイトボードが配備されました。

2） 中期計画（3 年～5 年） → 引き続き計画を進めます。

2025 年までに第 2 麦の里の開所を目指します。

麦の里大規模改修に向けた点検及び改修の実施計画作成、実施。

3） 長期計画（5 年以上） → 引き続き計画を進めます。

グループホーム事業の拡充

生活介護事業の拡充

麦の里大規模改修の本格実施

4） 事業計画の繰り上げ実施

緊急を要する場合は、各事業計画について繰り上げ実施する場合がある。

国の政策や経済的な状況等により、各事業計画の繰り上げ、繰り下げを行うことがある。

3、地域公益活動

福祉有償運送事業の実施。→対象者がおらず実施していません。

麦の里仲間の給食費軽減措置の継続（材料費代 1 食 275 円を 230 円に軽減）。

→継続して実施しました。
近隣住民との交流。地域行事への貢献。→コロナにより中止が相次ぎました。
七色の麦多目的ホールを活用した地域貢献の実施（講演会等）
→　計画できませんでした。
家族の高齢化などの理由により通院ができない麦の里仲間の定期通院支援、入院・手術の立ち会い、ペットの火葬等の支援を行った。

4、人材育成及び確保
研修への参加、資格取得の支援を実施します。
→強度行動障害者支援従事者研修（基礎・実践）等の資格取得を進めました。
事業拡大のため前倒しで職員採用を進めます。
→正職員３名採用（内１名パートから転換事務職員、内１名２月就職３月退職）
準職員２名採用（内１名パートから転換生活支援員、内１名特定技能）
非常勤職員４名採用（内１名５月就職12月退職運転手）
正職員４名退職（6月、7月、12月、3月）
非常勤職員４名退職（5月、6月、12月、2月）

5，新型コロナウイス感染防止対策及び職員の処遇安定化への対応
有人環境下で使えるオゾン発生器１５台を導入し、空間除菌を実施した。
次亜塩素酸でのテーブル、椅子、手すり等の消毒を行った。
30分毎の換気を促す館内放送を行った。
新型コロナウイルス感染まん延による施設閉鎖のため障害を持つ子の介護のため欠勤した職員及び新型コロナウイルス感染者、濃厚接触者となり欠勤した職員に対し、特別有給休暇を付与した。
2021年度実績
9か月、10人、（正職員５人、パート職員５人）
延べ69日、延べ466.5時間　給与等支給額503,145円
2020年度実績
11か月　4人（正職員２人、パート職員４人）
延べ101日、延べ767.5時間、給与等支給額885,261円
小学校休校による特別有給者（労働保険からの補填あり）
3か月　1人（パート職員１人）
延べ22日、延べ137.5時間、給与等支給額133,375円

社会福祉法人麦　２０２２年度法人本部事業計画

１、基本理念

「夢はでっかく、歩みは一歩ずつ」

どんなに重い障害があっても、一人の人間として生き生きと活動できる場所を目指します。「育ち合い、支え合いを大切にした、真に人間らしい営み」をめざして、彼らを取り巻く家族、そして職員たちが一緒になって、地域の人たちの理解を得ながら、ゆっくりと活動を展開していきましょう。

沿革

１９９３年「どんなに重い障害があっても地域で生活したい」という思いのもと、麦の里の活動は始まりました。

既存の施設からも断られるような、重い知的障害者や重複障害者を受け入れながら活動を続けています。障害を持ちながら前向きに頑張っている人たちを、共に生き、共に成長する「仲間」として、排除せず、彼らと共に麦の里は成長してきました。

１９９１年　４月	民家で活動開始
１９９３年　３月	障害者とともに歩む麦の会設立
１９９４年　５月	旧上品野小学校で作業開始
１９９５年１１月	共同作業所麦の里開所
２００３年　７月	社会福祉法人麦設立
２００４年　９月	身体障害者授産施設・通所療護施設「麦の里」開所
２００９年　２月	グループホーム建設予定地取得
２０１１年１２月	生活介護・就労継続支援Ｂ型多機能事業所へ移行
２０１３年　２月	グループホーム用中古住宅取得（品野町１丁目・第２ホーム）
２０１５年　４月	グループホーム「七色の麦」開所
２０１９年　５月	グループホーム「七色の麦」の３番目のホームとして「青色の麦」開所
２０２１年１１月	第２麦の里（仮称）用地取得

２、運営方針

１）私たちは社会的使命と社会的責任を認識し健全な事業運営を行います。

２）私たちは公正公平を原則とし、「相談」と「話し合い」を基本に、民主的な事業運営を展開します。

３）私たちは、様々な障害を抱えた利用者を、「共に、同じ地域社会の中で生活していく人間」あるいは「共に、仕事を分かち合いながら働く人間」として認め、その存在を「自分と等しく社会の一員である」と認めて接していくために「なかま」と呼びます。

４）私たちはなかまの安全と安心を守るとともに、障害者の自立支援となかま本位の

精神を尊重し、誠実な施設運営を展開します。

5）私たちは、なかまはもちろんのこと、職員その他すべての関係者の人権を尊重します。

そして、発達保障の立場に立ち、一人ひとりの「主体性」を尊重しながら、地域福祉の健全な発展に貢献します。

6）情報マネジメントを基本にして、運営面のすべてにおいて情報公開を原則とした透明性のある事業運営を行います。

3、　法人運営

1）　理事会・評議員会

理事会　2022年5月26日	2021年度事業報告案 2021年度決算案 監事監査報告 理事長業務報告
評議員会 2021年6月23日	2021年度事業報告 2021年度決算 監事監査報告
理事会　2022年10月　日	予算執行状況 補正予算案 理事長業務報告
評議員会 2022年10月　日	予算執行状況 補正予算
理事会　2023年3月　日	予算執行状況 補正予算案 2023年度事業計画案 2023年度予算案
評議員会 2023年3月	予算執行状況 補正予算 2023年度事業計画 2023年度予算

2）監事監査

2022年5月初旬～中旬にかけて行います。

4、事業計画

1）短期計画（1年～2年）

第2麦の里（仮称）施設整備国庫補助金申請を行います。

青色の麦定員増のための増築を検討し、進めます。

麦の里・七色の麦の防災グッズは、必要な整備を進めます。

麦の里全館LED化（1階2022年度）
麦の里乾燥機をガス乾燥機に変更及び設備工事
2025年10Windows10サポート終了に伴いパソコン更新計画を策定。2023年から3年計画でパソコンを更新する計画。
共同募金会の助成を受けた軽貨物にチャイルドロックがないため、チャイルドロック付きの軽貨物が必要となった。現在の愛称ちびたは、エンジントラブルがあり使用できなくなる見込みのため、軽貨物車を更新する。
BCP（業務継続計画）を策定します。

2） 中期計画（3年～5年）
2025年までに第2麦の里の開所を目指します。2022年度に国庫補助金申請を実施。
麦の里大規模改修に向けた点検及び改修の実施計画作成、実施。

3） 長期計画（5年以上）
グループホーム事業の拡充
生活介護事業の拡充
麦の里大規模改修の本格実施

4） 事業計画の繰り上げ実施
緊急を要する場合は、各事業計画について繰り上げ実施する場合がある。
国の政策や経済的な状況等により、各事業計画の繰り上げ、繰り下げを行うことがある。

5、 地域公益活動
福祉有償運送事業の実施。
麦の里仲間の給食費軽減措置の継続（材料費代1食275円を230円に軽減)。
家族の高齢化などの理由で通院や生活上の困りごとに対し、麦の里仲間の通院支援、生活支援（行政手続き・ペットの通院・火葬等）を実施。
近隣住民との交流。地域行事への貢献。
七色の麦多目的ホールを活用した地域貢献の実施（講演会等)

6、 人材育成及び確保
研修への参加、資格取得の支援を実施します。
・虐待防止・身体拘束適正化委員会を開催し、研修プログラムを整備します。
・感染症・食中毒予防対策委員会を開催し、研修プログラムを整備します。
・書籍等配布研修の効果測定を行います。
・資格取得に向け、外部研修への参加支援を実施します。
事業拡大のため前倒しで職員採用を進めます。